

## 令和 4(2022)年度 東筑紫短期大学 教員情報

### 【食物栄養学科】

ナカオカ ヒロシ  
中岡 寛 NAKAOKA Hiroshi 学長補佐 (教学担当)・教授

|         |  |
|---------|--|
| 所 属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科   |
| 担 当 科 目 | <b>【食物栄養学科】</b><br>・栄養学総論<br>・栄養学各論<br>・解剖生理学実験<br>・生化学実験  |
| 専 門 分 野 | ■ 栄養学  |
| 最 終 学 歴 | 長崎大学大学院 海洋生産科学研究科修士課程  |
| 学 位     | 修士 (水産学)   |
| 職 歴     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (昭和 61(1986)年 4 月～平成 6(1994)年 3 月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 助教授 (平成 6(1994)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月)<br>東筑紫短期大学 教務部 企画広報課長 (平成 10(1998)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月)<br>九州栄養福祉大学 教務部 企画広報課長 (平成 13(2001)年 4 月～平成 31(2019)年 3 月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成 17(2005)年 4 月～現在に至る)<br>学校法人東筑紫学園 評議員 (平成 20(2008)年 6 月～現在に至る)<br>東筑紫短期大学 教務部長 (平成 23(2011)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月)<br>九州栄養福祉大学 教務部長 (平成 26(2014)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月)<br>九州栄養福祉大学 学長補佐 (教学担当) (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る)<br>東筑紫短期大学 学長補佐 (教学担当) (平成 29(2017)年 4 月～現在に至る)<br>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 IR 推進本部長 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る)<br>学校法人東筑紫学園 理事 (令和 4(2022)年 5 月～現在に至る)  |
| 主な研究活動  | <b>【論文】</b><br>1. “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Lactic Acid Fermentation ” (英文)<br>「乳酸発酵に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」<br>(東筑紫短期大学研究紀要 第 33 号 平成 14(2002)年 12 月)<br>(概要)<br>The effect of $\beta$ -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus Aureobacidium pullulans ATCC 20524, on the growth of Lactococcus lactis subsp. Lactis 527 and the lactic acid fermentation in skim milk culture media was examined. It was found that $\beta$ -glucan promoted the lactic acid fermentation during logarithmic growth phase period in the skim milk culture media at 30°C. Above effect had positive relationship with increase in the amount of added $\beta$ -glucan in skim milk culture media, and this effect got more striking in the presence of high amount of $\beta$ -glucan. |

**2. “Effect of Polysaccharide from a Yeast - Like Fungus on Physical Properties of Acid Milk Curd” (英文)**

「ミルク酸カールの物性に及ぼす酵母様かび産生多糖の影響」

(東筑紫短期大学研究紀要 第34号 平成15(2003)年12月)

(総説)

The effect of  $\beta$ -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced by the yeast-like fungus *Aureobacidium pullulans* ATCC 20524, on the physical properties of acid milk curd was examined. The curd was formed by the growth of *Lactococcus lactis* 527. It was found from the results obtained that  $\beta$ -glucan decreased the clotting time of milk curd formation. But, the effect of  $\beta$ -glucan on the physical properties, namely, hardness, breaking energy, and elastic modulus, respectively, of acid milk curd was undesirable on account of the formation of soft curd.

**3. “Characteristics of Vienna Sausage Manufactured by Adding Polysaccharide from the Yeast - Like Fungus” (英文)**

「酵母様カビ産生多糖を添加したウィンナーソーセージの性状」

(東筑紫短期大学研究紀要 第35号 平成16(2004)年12月)

(総説)

The effect of  $\beta$ -glucan, a kind of extracellular water-soluble polysaccharide produced from the yeast-like fungus *Aureobacidium pullulans* ATCC 20524, on the characteristics of Vienna sausage was examined. It was found from results obtained that polysaccharide from the yeast-like fungus had no influence on the bacterial growth, VBN, TBA of Vienna sausage during cold storage, whereas the desirable values were earned by the estimation of physical properties and the organoleptic test.

受賞歴

全国栄養士養成施設協会会長表彰

(平成22(2010)年11月)

ハギワラ ハヤト  
萩原 勇人 HAGIWARA Hayato 学生部長・教授

|        |  |
|--------|--|
| 所属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科   |
| 担当科目   | <p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータリテラシー</li> <li>・情報処理学演習Ⅱ</li> <li>・医療事務概論</li> <li>・医療秘書実務</li> <li>・診療報酬請求事務Ⅰ、診療報酬請求事務Ⅱ</li> <li>・医療秘書実務実習</li> </ul>   |
| 専門分野   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 情報処理学</li> <li>■ 医療秘書学</li> </ul>   |
| 最終学歴   | 九州工業大学大学院工学府 先端機能システム工学専攻 博士後期課程修了   |
| 学位     | 博士 (工学)  |
| 職歴     | <p>○コマック株式会社 (現 株式会社アステム) (昭和60(1985)年11月～平成11(1999)年3月)</p> <p>○医療法人 聖亮会 聖ヨハネ病院 事務長 (平成11(1999)年4月～平成13(2001)年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成13(2001)年4月～平成22(2010)年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 学生部就職指導課 主事 (平成19(2007)年4月～平成26(2014)年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成22(2010)年4月～平成29(2017)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部学生指導課 課長 (平成26(2014)年4月～令和2(2020)年3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (平成29(2017)年4月～現在に至る)</p> <p>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部就職指導課 課長 (平成30(2018)年4月～平成31(2019)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部 次長 (平成30(2018)年4月～令和2(2019)年3月)</p> <p>九州栄養福祉大学・東筑紫短期大学 学生部長 (令和2(2020)年4月～現在に至る)</p> <p>学校法人東筑紫学園 評議員 (令和3(2021)年4月～現在に至る)</p>   |
| 教育上の業績 | <p>本学の入試に大学入試センター試験利用を導入するに当たり、インターネット回線にて受信した大学入試センター試験結果を教務部で利用可能なフォーマット (Excel データ形式) に変換するツールを作成した。(平成17(2005)年9月～)</p> <p>日本医療福祉実務教育協会にて医療秘書実務士養成に携わる教職員を対象に「e-Learning 勉強会」を実施。(平成18(2006)年10月、平成20(2008)年9月、令和元(2019)年9月)</p> <p>日商 PC 検定をはじめ、診療報酬請求事務能力認定試験、フードスペシャリスト資格認定試験等、学生が受験する各種資格試験対策として、Web ベースの e-Learning を構築した。(平成19(2007)年2月～)</p> <p>平成19年度は食物栄養学科担当として、平成20年度以降は、食物栄養学科ならびに併設校九州栄養福祉大学の担当として学生の就職支援に従事した。(平成19(2007)年4月～平成26(2014)年3月)</p> <p>学生の就職活動を支援するシステムとして、Web アプリケーションを有効活用し、学生 (卒業生を含む) ならびに教職員が学内 LAN およびインターネットを通じて、いつでもどこからでも企業情報や求人情報などを検索・閲覧可能な Web データベースを構築した。学生には、就職エントリーも可能とし、教職員には、担当学生の就職活動状況の情報を閲覧可能とした。また、過去 (卒業生) の就職活動状況の情報をデータベースとして蓄積し、閲覧可能とした。本取り組みは、平成21年度 文部科学省 大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラムに採択された。(平成19(2007)年4月～)</p> <p>本学 (平成27年度) ならびに、併設校九州栄養福祉大学 (平成28年度) の第三者評価受審に伴い、事務局として自己点検・評価報告書の取り纏めに携わった。(平成26(2014)年4月～平成28(2016)年3月)</p> <p>平成29年度より短期大学基準協会の評価委員を拝命し、評価チームの一員として会員校の認証評価業務に携わっている。(平成29(2017)年4月～)</p> |



|        |  |
|--------|--|
| 主な研究活動 | <b>【著書】</b>  |
|        | <b>「医学・医療用語ハンドブック」</b> 建帛社 (平成 17(2005)年 11 月)<br>(概要)<br>本書は、医療福祉教育を学ぶ学生のほか、医療・福祉分野に従事している者を対象とし、医学・医療・福祉と幅広い分野の用語の検索が容易で内容が理解しやすく携帯できるハンドブックである。用語は使用頻度の高い重要用語 1,400 語を五十音配列で掲載するとともに、人体解剖図を掲載して各部の名称を記している。また、医療現場で役立つよう、医療英語、難読漢字、薬と薬効、医療分野で使用される単位、特定疾患一覧などを表にまとめている。(編著者：美馬信、林正之、 <u>萩原勇人</u> 、中澤厚志、著者：倉戸啓子、桜井勉、大棒秀一、西岡百合子、若林太。執筆担当分野：医療情報、診療報酬、人体解剖図、なお、執筆ページについては執筆項目が 50 音配列で多岐に掲載されているため省略。) |
|        | <b>「改定 医療秘書実務」</b> 建帛社 (平成 19(2007)年 10 月)<br>(概要)<br>本書は、日本医療福祉実務教育協会が認定する「医療秘書実務士」養成の趣旨に沿って、基本的に理解しておかなければならない内容を実務に重点を置き、その内容を体系的にとらえ、実践に即応できるテキストとなっている。(編著者：美馬信、東野國子、著者：岩崎充孝、沖山圭子、 <u>萩原勇人</u> 、山村美穂子。執筆ページ：pp135-163。)   |
|        | <b>「病院事務のための医療事務総論／医療秘書実務」</b> 建帛社 (平成 29(2017)年 4 月)<br>(概要)<br>本書は、日本医療福祉実務教育協会が認定する「医療秘書実務士」養成の趣旨に沿って、基本的に理解しておかなければならない内容を実務に重点を置き、その内容を体系的にとらえ、実践に即応できるテキストとなっている。(編著者：有吉澄江、沖山圭子、著者：岩崎充孝、上田知美、小辻一己、小松仁美、藤堂隆司、中川雅登、 <u>萩原勇人</u> 。執筆ページ：pp201-208。)   |
|        | <b>【研究紀要】</b>  |
|        | 1. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 10<br>—Roundcube を用いた Web メールサービスの構築—」<br>(東筑紫短期大学研究紀要 第 43 号、平成 24(2012)年 12 月)<br>(概要)<br>本稿では、Web メールサービスの構築について述べている。Roundcube と呼ばれる Web メールクライアントソフトウェアをアプリケーションサーバ上に導入するとともに、ユーザの利便性向上を目指して Roundcube の改良を行った。(萩原勇人、赤松貴文：pp159-175。)  |
|        | 2. 「Web アプリケーションによる就職支援システムの構築 2<br>—オープンソース帳票生成ライブラリ JasperReports との連携—」(論文)<br>(東筑紫短期大学研究紀要 第 44 号、平成 25(2013)年 12 月)<br>(概要)<br>本稿では、学生の就職活動に対する意識向上を図るとともに就職指導課と各学科の更なる連携体制を図る目的で構築した就職支援システムへの機能追加について述べている。オープンソース・ソフトウェアである帳票生成ライブラリ JasperReports との連携を図り、PDF 形式による各種帳票出力の機能を実装した。(萩原勇人、矢野正人、赤松貴文：pp65-78。)   |
|        | 3. 「Web アプリケーションによる就職支援システムの構築 3<br>—Web アプリケーション開発ツール Wagby R7 への対応—」<br>(東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26(2014)年 12 月)<br>(概要)<br>平成 26 年 1 月に Wagby が R6 から R7 へとメジャーアップデートされ、開発環境が大幅に刷新された。本稿では、就職支援システムの更なる充実を図るため実施した Wagby R7 への対応とともに、Wagby R7 を用いて構築した本システムへの追加機能について紹介している。<br>(萩原勇人、矢野正人、赤松貴文：pp 153-167。)  |



#### 4. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 11

##### －LEAF Bering-uClibc を用いたファイアウォールの構築－

(東筑紫短期大学研究紀要 第 45 号、平成 26(2014)年 12 月)

###### (概要)

本稿では、LEAF Bering-uClibc を用いて構築したファイアウォールの概要について述べている。LEAF Bering-uClibc は現在も活発に開発が継続されている、ファイアウォール構築に適した Linux ディストリビューションであり、USB メモリからの起動にも対応している。LEAF Bering-uClibc を採用したことで、安全性、安定性、拡張性の高いファイアウォールを構築することができた。

(萩原勇人、赤松貴文：pp169-180。)

#### 5. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 12

##### －ownCloud を用いたオンラインストレージの構築－

(東筑紫短期大学研究紀要 第 46 号、平成 27(2015)年 12 月)

###### (概要)

本稿では、多くの教職員、学生にとって有用であると予想される、学外からもアクセス可能なファイル共有サービスであるオンラインストレージサービスの構築について述べている。オンラインストレージサービスを活用することで、学内で作業したファイルに学外からアクセスできるようになるなど、業務効率や作業効率の大幅な向上が期待できる。(萩原勇人、赤松貴文：pp147-160。)

#### 6. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 13

##### －LEAF Bering-uClibc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築－

(東筑紫短期大学研究紀要 第 47 号、平成 28(2016)年 12 月)

###### (概要)

本稿では、LEAF Bering-uClibc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築について述べている。LEAF Bering-uClibc にはソフトウェアパッケージのをビルドする機能がないため、一般的な Linux ディストリビューションを用いてビルド環境を構築する必要がある。本研究は、CentOS 6.8 を用いて LEAF Bering-uClibc 5 用ソフトウェアパッケージのビルド環境を構築した。(萩原勇人、赤松貴文：pp9-20。)

#### 7. 「6 軸モーションセンサーを用いた包丁技術の可視化装置の検討」

(中京学院大学中京短期大学部研究紀要 第 47 巻 第 1 号、平成 29(2017)年 3 月)

###### (概要)

本稿では、6 軸モーションセンサーを用いて包丁操作を記録・解析し、可視化する方法を検討した。包丁の柄と同程度の大きさのセンサーモジュールを作成し、包丁の刃側と柄側の動作を同時に記録できるように、2 個のセンサーを装着し実験を行った。キュウリの小口切り、人参と大根のイチョウ切り、大根の桂むきの動作を記録し、得られた信号を高速フーリエ変換 (FFT) にかかけ、比較を行った。いずれの操作においても、本機を利用することで、包丁操作の特徴を捉え、可視化できる可能性が示された。

(由良亮、浜野純、萩原勇人、楠瀬千春：pp1-10。)

#### 8. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 14

##### －LEAF Bering-uClibc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築 2－

(東筑紫短期大学研究紀要 第 49 号、平成 30(2018)年 12 月)

###### (概要)

本稿では、前稿に引き続き、LEAF Bering-uClibc 用ソフトウェアパッケージのビルド環境の構築について述べている。本研究は、CentOS 6.10 を用いて LEAF Bering-uClibc 5 用ソフトウェアパッケージのビルド環境を新たに構築した。また、LEAF Bering-uClibc の機能向上を図るために 2 つのソフトウェアパッケージのビルドを行った。(萩原勇人、赤松貴文：pp163-177。)

#### 9. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 15

##### －Nextcloud を用いたセキュアなオンラインストレージの構築－

(東筑紫短期大学研究紀要 第 50 号、令和元(2019)年 12 月)

###### (概要)

本稿では、本学の教職員、学生向けのオンラインストレージの実運用に向け、セキュアなオンラインストレージの構築について述べている。以前構築した ownCloud を用いたオンラインストレージは、2 段階認証に対応していなかったため、セキュリティ面で不安が残った。今回は、Nextcloud を用いて Two-Factor TOTP Provider アプリを導入することにより 2 段階認証を実現した。(萩原勇人、赤松貴文：pp209-225。)





## 10. 「オープンソース・ソフトウェア活用事例 16

## ーデジタルサイネージの構築ー

(東筑紫短期大学研究紀要 第 51 号、令和 2(2020)年 12 月)

## (概要)

本稿では、従来の掲示板やポータルサイトの掲示機能などのプル型メディアによる情報発信を補完することを目的としたデジタルサイネージシステムの構築について述べている。デジタルサイネージは、テレビやラジオのようにユーザに対して受動的に情報を受け取ってもらうプッシュ型メディアである。一般的にプッシュ型メディアのシステム構築にかかる費用は高額となる場合が多いが、筆者らは費用対効果を高めることを目標にシステムの構築を進めた。

(萩原勇人、赤松貴文、長田裕之、下田健太郎 : pp139-152。)

## 【発表等】

## 「FPGA を用いたステレオビジョンシステムの構築」(発表)

平成 24 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 24(2012)年 9 月)

(西部尚矢、萩原勇人、浅海賢一、小森望充 : 平成 24 年度電気関係学会九州支部連合大会講演論文集 CD-ROM、03-2A-05、長崎大学、平成 24(2012)年 9 月 24-25 日。)

## 「移動体行動解析のためのステレオビジョンシステムの構築」(発表)

平成 24 年度 電気関係学会九州支部連合大会 (平成 24(2012)年 9 月)

(劉雅倩、萩原勇人、浅海賢一、小森望充 : 平成 24 年度 電気関係学会九州支部連合大会講演論文集 CD-ROM、03-2P-08、長崎大学、平成 24(2012)年 9 月 24-25 日。)

Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : **Real-time Image Processing System by Using FPGA for Service Robots**, Proc. of the 1st IEEE Global Conference on Consumer Electronics, pp.178-181, Chiba, Japan, October 2-5, 2012.

Asami, K., Hagiwara, H. and Komori, M. : **Visual Navigation System Based on Evolutionary Computation on FPGA for Patrol Service Robot**, Proc. of the 1st IEEE Global Conference on Consumer Electronics, pp.169-172, Chiba, Japan, October 2-5, 2012.

Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : **Development of Adaptive Image Processing based on FPGA for Real-time Robot Vision System**, Proc. of the 1st International Conference on Industrial Application Engineering 2013, pp.174-181, Kitakyushu, Japan, March 27-28, 2013.

## 「移動ロボットのための SIFT 特徴量を用いたシーン認識」(論文)

産業応用工学学会論文誌 Vol.1, No.2 (平成 25(2013)年 9 月)

(當眞康史、萩原勇人、浅海賢一、小森望充 : pp39-46。)

Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : **Development of Adaptive Image Processing based on FPGA for Real-time Robot Vision System**, Journal of the Institute of Industrial Applications Engineers, Vol.1, No.2, pp.90-96, Oct. 2013.

Touma, Y., Hagiwara, H., Asami, K. and Komori, M. : **Local Binary Feature Based on Census Transform for Mobile Robot**, Proc. of Joint 7th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 15th International Symposium on Advanced Intelligent Systems, pp.1192-1197, Kitakyushu, Dec., 4-5, 2014.

Daiki Kitayama, Yasufumi Touma, Hayato Hagiwara, Kenichi Asami and Mochimitsu Komori: **3D Map Construction Based on Structure from Motion Using Stereo Vision**, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#:183, Kitakyushu, June 15-18, 2015.

Kaichiro Nakazato, Yasufumi Touma, Hayato Hagiwara, Kenichi Asami, Mochimitsu Komori: **FPGA-based Stereo Vision System Using Census Transform for Autonomous Mobile Robot**, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics & Vision, Paper#:182, Kitakyushu, June 15-18, 2015.



|        |  |
|--------|--|
|        | <p>Tsukasa Nakamura, Yasufumi Touma, <u>Hayato Hagiwara</u>, Kenichi Asami, Mochimitsu Komori: <b>Scene Recognition Based on Gradient Feature for Autonomous Mobile Robot and Its FPGA Implementation</b>, Proc. of The 4th International Conference on Informatics, Electronics &amp; Vision, Paper#:181, Kitakyushu, June 15-18, 2015.</p> <p><u>Hayato Hagiwara</u>, Yasufumi Touma, Kenichi Asami and Mochimitsu Komori: <b>FPGA-Based Stereo Vision System Using Gradient Feature Correspondence</b>, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.27, No.6, pp.681-690, December 2015.</p> <p>「6軸モーションセンサーによる包丁操作の記録」(発表)<br/>平成29年度 一般社団法人日本調理科学会 (平成29(2017)年8月)<br/>(由良亮、浜野純、萩原勇人、楠瀬千春: 日本調理科学会大会研究発表要旨集 29(0), 20, 2017、お茶の水女子大学、平成29(2017)年8月31-9月1日。)</p> <p>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(発表)<br/>平成30年度 一般社団法人日本調理科学会 (平成30(2018)年8月)<br/>(由良亮、浜野純、萩原勇人、梅林千恵子、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春: 日本調理科学会大会研究発表要旨集 30(0), 1, 2018、武庫川女子大学、平成30(2018)年8月30-31日。)</p> <p>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(論文)<br/>食生活研究 39(6) (平成31(2019)年)<br/>(由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、楠瀬千春: pp 338 - 357。)</p> <p>「キュウリ小口スライス包丁操作のモーションデータから得られる特徴量の機械学習による分類」(発表)<br/>2019年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年8月)<br/>(由良亮、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春: 日本調理科学会大会研究発表要旨集 2019, 31, 2C-11, p. 57-、中村学園大学、令和元(2019)年8月26-27日。)</p> <p>「キュウリの小口スライス動作から見る包丁技術学習者と熟練者の動作の特徴」(発表)<br/>2019年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年8月)<br/>(由良亮、浜野純、萩原勇人、梅林千恵子、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春: 日本食品科学工学会大会講演集 66<sup>th</sup>, 203, 2019、藤女子大学、令和元(2019)年8月29-31日。)</p> <p>「包丁操作における特徴の見える化によるデータを活用した指導効果」(発表)<br/>日本栄養学教育学会雑誌 4(Supplement) (令和元(2019)年9月)<br/>(山本麻衣、藤岡美香、楠瀬千春、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、由良亮: pp17。)</p> <p>「6軸モーションセンサーによる包丁操作データを活用した操作特徴の見える化」(発表)<br/>日本栄養学教育学会雑誌 4 (Supplement) (令和元年9月)<br/>(由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原勇人、梅林千恵子、浜野純、楠瀬千春: pp16。)</p> |
| 主な社会活動 | <p>・北九州市立年長者研修大学校 周望学舎 シニアカレッジ講師<br/>(平成18(2006)年11月、平成21(2009)年12月)</p> <p>(概要)<br/>「治療費の中身わかりますか?」と題して、保険診療のしくみと診療報酬点数表の解釈の基礎をわかりやすく解説。社会保険・国民健康保険・老人保健の概要、ならびに診察料、投薬料、注射料、検査料等の診療報酬点数の計算方法を解説し、「なぜ、病院によって治療費が違うのか?」、「昨日と同じ内容なのに治療費が違うのは、なぜ?」など、よくある疑問について詳しく解説した。また、診療報酬請求事務を実際に体験させた。</p>  |
| 所属学会   | <p>日本医療福祉実務教育協会 (e-Learning 教育・検定委員会 座長)<br/>(平成18(2006)年～現在に至る)</p> <p>全国医事振興協会 (専門委員)<br/>(平成16(2004)年～現在に至る)</p> <p>日本医療保険事務協会<br/>(平成16(2004)年～現在に至る)</p>  |

ツチヤ マサヨ  
土谷 政代 TSUCHIYA Masayo 教授 [食物栄養学科長]

|         |   |
|---------|---|
| 所 属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科  |
| 担 当 科 目 | [食物栄養学科]<br>・児童・生徒の栄養指導<br>・給食管理<br>・給食管理実習Ⅱ<br>・栄養指導実習Ⅱ<br>・教職実践演習(栄養教諭)<br>・栄養教育実習事前・事後指導<br>・栄養教育実習  |
| 専 門 分 野 | ■ 栄養教諭養成に関する指導<br>■ 食育・食に関する指導<br>■ 児童生徒の食生活<br>■ 集団給食における給食管理・衛生管理   |
| 最 終 学 歴 | 熊本女子大学(現:熊本県立大学) 文・家政学部 食物学科  |
| 学 位     | 学士(家政学)   |
| 職 歴     | 中津・宇佐市立小・中学校 学校栄養職員 (昭和51(1976)年4月～平成7(1995)年3月)<br>豊後高田市立小・中学校 主任学校栄養職員 (平成7(1995)年4月～平成17(2005)年3月)<br>大分県教育庁体育保健課 指導主事 (平成17(2005)年4月～平成20(2008)年3月)<br>豊後高田市立真玉中学校 栄養教諭 (平成20(2008)年4月～平成26(2014)年3月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成26(2014)年4月～平成30(2018)年3月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長・准教授 (平成30(2018)年4月～平成31(2019)年3月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 学科長・教授 (平成31(2019)年4月～現在に至る)  |
| 教育上の業績  | <p><b>1. 研究分野等の教育内容の充実に向けた取組</b></p> <p>(概要)</p> <p>○食生活等実態調査を大分県教育委員会として実施し、集計結果及びその分析をとりまとめた「児童・生徒の食生活等実態調査報告書」を作成する。また、この調査をもとに、食育推進の意識の醸成を図るとともに、食育の推進に努める。(平成17(2005)年～平成20(2008)年)</p> <p>○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。(平成20(2008)年～平成23(2011)年)</p> <p>○食育基本法及び中央教育審議会答申の趣旨に基づき、食に関する指導の必要性や進め方、栄養教諭の関わりを示し、大分県における食に関する指導の指針となる「食に関する指導の手引」を作成するとともに、全国学校給食研究協議大会などの各種研究会において助言を行う。(平成20(2008)年～平成23(2011)年)</p> <p>○大分県教育委員会において学校における食育の推進及び食に関する指導の充実のための「生きる力を育む食育推進事業」を企画・立案し、研究の方向性や内容、実施方法等について。指定地域・学校の指導に当たる。(平成17(2005)年～平成20(2008)年)</p> <p>○文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究」マニュアル作成ワーキング委員を5年にわたり務め、全国の学校給食に携わる関係者にとって、学校給食衛生管理の指針となるマニュアル作成を行う。(平成20(2008)年～平成24(2012)年)</p> <p>○栄養教諭に関する指導書(教科書)の作成<br/>大学において栄養教諭を目指す学生や義務教育諸学校に勤務する栄養教諭のための指導書(教科書)「調理場における衛生管理&amp;調理技術マニュアル」、「学校給食調理従事者研修マニュアル」、「よくわかる栄養教諭―食育の基礎知識 第二版―」を作成し、各研修会における講話や学生に対する講義において実践的な指導に努めている。(平成26(2014)年～平成29(2017)年)</p> |
|         | <p><b>2. 作成した教科書・教材</b></p> <p>・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part I」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成21(2009)年)<br/>食中毒防止の観点から、調理場における機器や器具の洗浄・消毒について、そのポイントを押さえて記述された教科書である。</p>  |





- ・「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成 22(2010)年)  
食中毒防止の観点から、調理場における施設設備の洗浄・消毒について、そのポイントを押さえて記述された教科書である。
- ・「調理技術&衛生管理マニュアル」(共著)(文部科学省)(学建書院)(再掲)(平成 23(2011)年)  
食中毒防止の観点及び調理技術の向上の観点から調理工程ごとに記述された教科書である。
- ・「学校給食調理従事者研修マニュアル」(共著)(文部科学省)(学建書院)(再掲)(平成 24(2012)年)  
「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、研修を担当する指導者のための教科書である。
- ・「学校給食施設設備の改善事例集」(共著)(文部科学省)(再掲)(平成 25(2013)年)  
衛生管理の改善の方法や改善事例を示した教科書である。
- ・「よくわかる栄養教諭一食育の基礎知識 第二版」(共著)(同文書院)(再掲)(平成 28(2016)年)  
栄養教諭、食育を学ぶ上で押さえておきたい重要ポイントについて記述された教科書である。
- ・「栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート」(共著)(学建書院)(再掲)(令和 3(2021)年)  
教職課程の「栄養教育実習事前・事後指導」及び「教職実践演習」の授業において、栄養教諭に求められる資質・能力を身に付ける上での基礎・基本を学ぶ教科書として活用できる書である。

### 3. 学会等における発表

- ・研究主題「食に関心をもち、自ら考え、健康を追求していく児童生徒の育成」  
(第 63 回全国学校給食研究協議大会)(平成 24(2012)年)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証  
ー各種マニュアルの活用を中心にー」  
守田真里子 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 田中延子  
(第 15 回日本給食経営管理学会学術総会)(令和元(2019)年 11 月)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証(2)  
ー各種マニュアル活用の検討ー」  
高田尚美 安倍ちか 太田裕美子 土谷政代 田中延子 守田真里子  
(第 15 回日本給食経営管理学会学術総会)(令和元(2019)年 11 月)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証  
～調理場運営(形態)方式等の相違から～」  
太田裕美子 安倍ちか 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子  
(第 67 回日本栄養改善学会学術総会)(令和 2(2020)年 9 月)
- ・「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証  
～職種による比較検討を通して～」  
安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子  
(第 67 回日本栄養改善学会学術総会)(令和 2(2020)年 9 月)

### 主な研究活動 (学会発表等)

#### 1. 食生活に関する教育の実践研究

(概要)

児童生徒が「食の重要性」や「食を選択する力」を身につけ、食生活を改善できるよう児童生徒の食生活の実態を把握・分析し、学校・家庭・地域が連携した食に関する指導の研究実践。

#### 2. 食育の推進に関する実践研究

(概要)

食育の推進充実のための方策として、幼稚園から中学校までの 11 年間を見通した組織的・計画的な食に関する指導体制の整備や児童生徒の望ましい食習慣の形成に向けた食に関する指導の在り方の研究。

#### 3. 食物アレルギーをもつ児童生徒への個別指導における研究

(概要)

食物アレルギーをもつ児童生徒への学校給食における食事対応について、文部科学省の「学校のアレルギー疾患に対する取組ガイドライン」に基づき、「食物アレルギー対応マニュアル」を作成する。また、食物アレルギーをもつ児童生徒の個別指導及びその保護者への個別相談活動の取組。



#### 4. 肥満及び痩身傾向にある児童生徒への個別指導における研究

(概要)

文部科学省の「学校給食摂取基準」に基づき、児童生徒の体格の評価や推定エネルギー必要量を算出し、個別の対応が必要な生徒に対しての個別の指導の在り方における研究実践。

#### 5. スポーツをする児童生徒のための指導の在り方における研究

(概要)

野球部、柔道部、陸上部を中心に、スポーツ選手としての食事の留意点や試合前の食事、体調管理についての個別指導における研究実践、及びスポーツ栄養に配慮した調理講習会の講師を務める。

#### 6. 学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究

(概要)

文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者マニュアル作成ワーキンググループ委員」として、学校給食における衛生管理の充実のための研究及びマニュアル作成を行う。

#### 7. 栄養教諭が行う食に関する指導の在り方

—中央教育審議会答申および学習指導要領を踏まえて—

土谷政代（東筑紫短期大学研究紀要 第47号 平成28(2016)年12月）

(概要)

「中央教育審議会答申」や現行の「学習指導要領」を踏まえ、学校における食育の推進に向けて、推進・指導体制の望ましい在り方を示すとともに、各教科や領域において、栄養教諭の専門性を活用しながら学校教育活動全体で取り組む「食に関する指導」の在り方を示した。

#### 8. 「集団給食における衛生管理の考え方

—大量調理の特性および学校給食衛生管理基準の観点から—

土谷政代・光本琴美（東筑紫短期大学研究紀要 第48号 平成29(2017)年12月）

(概要)

大量調理の特性や「学校給食衛生管理基準」を基に、集団給食における衛生管理の考え方についてハード面、ソフト面の両方から衛生管理のステップを踏まえて記述したもの。

#### 9. 「新学習指導要領における食に関する指導

—学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて—

土谷政代（東筑紫短期大学研究紀要 第49号 平成30(2018)年12月）

(概要)

学習指導要領改訂の趣旨を踏まえて、新学習指導要領（平成29年3月告示）における食に関する指導の位置づけや栄養教諭等の専門性の活用の仕方について記述したもの。

#### 10. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証

—各種マニュアルの活用を中心に—

守田真里子 安倍ちか 太田裕美子 高田尚美 土谷政代 田中延子

（第15回日本給食経営管理学会学術総会 示説発表）（令和元(2019)年11月）

(概要)

学校給食における食中毒の件数は、平成9年度から大幅に減少しており、その背景として国が策定した「学校給食衛生管理の基準」や科学的根拠に基づいた各種マニュアル等を作成・配付し、衛生管理の向上を図ってきたことが影響していると考えられる。本研究では、学校給食施設の栄養教諭等（12都道府県1435名）にアンケートを実施し、各種マニュアルの活用や指導状況、課題等について調査し、解析・検証を行った。

#### 11. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証（2）

—各種マニュアル活用の検討—

高田尚美 安倍ちか 太田裕美子 土谷政代 田中延子 守田真里子

（第15回日本給食経営管理学会学術総会 示説発表）（令和元(2019)年11月）

(概要)

本研究では、「10：学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証」について、基準策定のきっかけとなった平成8年の腸管出血性大腸菌O157による食中毒発生時以前からの勤務者とそれ以降採用の勤務者とで各種マニュアル活用状況や衛生管理に対する意識等に差異がみられるかを検証するため比較検討を行った。



## 12. 「学校給食における衛生管理手法の周知と食中毒発生の減少との関連性の検証 ～調理場運営（形態）方式等の相違から～」

太田裕美子 安倍ちか 高田尚美 土谷政代 守田真里子 田中延子

（第67回日本栄養改善学会学術総会 誌上发表）（令和2（2020）年9月）

（概要）

本研究では、学校給食において学校数ベースの調理業務委託率が平成15年15.2%であったものが、平成30年5月現在50.6%と増加している（文部科学省「学校給食実施状況等調査」）ことから、調理方式（単独調理場・共同調理場）、運営形態（直営・委託）別の各種マニュアルの活用や衛生管理指導状況について検討を行った。

【著書】

### 1. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part 1」（平成21（2009）年）（文部科学省）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第3章・2・3（P20・P44）

（概要）

食中毒を防止するため、調理場における食品・調理器具等の洗浄・消毒の意義やその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述。

### 2. 「調理場における洗浄・消毒マニュアル part II」（平成22（2010）年）（文部科学省）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第2章・3・4・5・6・7・8・9・10（P13・P24）

（概要）

調理場の施設や食器等の洗浄・消毒および洗浄・消毒の評価方法についてその重要性及び方法について根拠となるデータをもとに記述したもの。

### 3. 「調理場における衛生管理&調理技術マニュアル」（平成23（2011）年）（文部科学省）（学建書院）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第2章・1,第3章・1・2,第5章・1・2（P8・P12）（P15・P27）（P51・P56）

（概要）

科学的根拠に基づき、検収室・下処理室における洗浄方法や調理室における切裁・調理の作業について衛生管理と調理技術の両方の視点から記述したもの。

### 4. 「学校給食調理従事者研修マニュアル」（平成24（2012）年）（文部科学省）（学建書院）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第2章・1,第3章・1・2,第5章・1・2（P8・P12）（P15・P27）（P51・P56）

（概要）

「学校給食調理員の標準的研修プログラム」に準拠し、衛生管理を充実させるためのステップを明記するとともに、根拠を追及・詳述し、研修を担当する指導者のためのマニュアル。

### 5. 「学校給食施設設備の改善事例集」（平成25（2013）年）（文部科学省）

共著者：文部科学省「学校給食における衛生管理の改善・充実に関する調査研究協力者会議マニュアル作成ワーキンググループ」委員

担当：第3章・1（P10・P20）

（概要）衛生管理のステップ毎に改善の方法や改善事例をまとめた事例集である。



|               |  |
|---------------|--|
|               | <p>6. 「よくわかる栄養教諭—食育の基礎知識— 第二版」(平成 28(2016)年) (同文書院)<br/>     編 著：藤澤良知、芦川修貳、古畑公、田中弘之、田中延子<br/>     著：土谷政代、大田裕美子、白尾美佳、亀田明美、守田真里子、登坂三紀夫、山口蒼生子、梅垣敬三・<br/>     小河原佳子、堤ちはる、原ゆみ、安倍ちか<br/>     担 当：(第 2 章-1,2 節) (P19 - P37)</p>   |
|               | <p>(概要)<br/>     学校等における食育の推進に栄養教諭の中核的な役割が重要視されている中、栄養教諭の教育養成に当たってどのような養成教育をおこなったらよいかを視点を置いて執筆したものの。<br/>     11 章から成り、管理栄養士・栄養士教育の教科課程における公衆栄養学のカリキュラムとの整合性について配慮している。</p>  |
|               | <p>7 「栄養教諭のための教育実践演習・栄養教育実習ノート<br/>     —1 年次から使えるポートフォリオ—」(令和 3(2021)年 2 月) (学建書院)<br/>     監 修：芦川修貳 編集代表：田中延子 編集：守田真里子、高田尚美<br/>     著：秋葉佳子、芦川修貳、安倍ちか、岩田雪子、内田良子、太田裕美子、岸根美絵、後藤純子<br/>     島村幸代、高田尚美、高橋和子、竹内佳代子、田中延子、田中広美、土谷政代、飛松佳子<br/>     中津井貴子、西内恵子、水嶋眞由美、守田真里子、山際昌枝 (五十音順)<br/>     担 当：(第 2 章-B-10) (P68 - P69) (第 2 章-F) (P81 - P83) (資料) (P103 - P105)</p>   |
| <p>主な社会活動</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育講演会「元気な体と心は食事から～食べ方は生き方・育て方」 (平成 26(2014)年)</li> <li>・食育講演会「食事と健康～子どもの健やかな成長を願って～」 (平成 27(2015)年)</li> <li>・食育講演会「食事、その食べ方を考えよう～これからの身体づくりのために今できること～」 (平成 27(2015)年)</li> <li>・食育講演会「体の栄養・心の栄養～逞しい心と体づくりのために」 (平成 27(2015)年)</li> <li>・学校栄養士研究発表会指導助言 (平成 27(2015)年～令和 3(2022)年)</li> <li>・学校栄養職員研修会 新規採用・フォローアップ研修講師 (平成 28(2016)年)</li> <li>・大分市学校給食衛生管理研修会講師 (平成 29(2017)年)</li> <li>・福岡県筑豊地区栄養教諭・学校栄養職員研修会講師 (平成 30(2018)年)</li> <li>・「給食月間記念講演会」講師 (平成 31(2019)年)</li> <li>・学校給食研究協議会「食育講演会講師」 (令和元(2019)年)</li> </ul> |
| <p>所属学会</p>   | <p>日本栄養士会 (昭和 51(1976)年～現在に至る)<br/>     日本栄養改善学会 (平成 26(2014)年～現在に至る)</p>  |
| <p>受賞歴</p>    | <p>大分県栄養士会研究発表事例研修会優秀賞 (平成 12(2000)年)<br/>     大分県教育委員会教育実践者表彰 (平成 14(2002)年)<br/>     大分県教育委員会学校給食功労者表彰 (平成 22(2010)年)<br/>     文部科学省学校給食功労者文部科学大臣表彰 (平成 23(2011)年)<br/>     日本医師会会長表彰 (平成 30(2018)年)</p>   |



|        |   |
|--------|---|
| 所属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科  |
| 担当科目   | <p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床栄養学Ⅰ</li> <li>臨床栄養学Ⅱ</li> <li>臨床栄養学実習Ⅰ</li> <li>臨床栄養学実習Ⅱ</li> <li>給食管理実習Ⅰ (臨地実習)</li> </ul> <p>[九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リハビリテーション栄養学</li> </ul>   |
| 専門分野   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 臨床栄養学</li> <li>■ 感染制御学</li> </ul>  |
| 最終学歴   | 東京医療保健大学 大学院 博士課程   |
| 学位     | 博士 (感染制御学)<br>修士 (医療栄養学)  |
| 職歴     | <p>医療法人(現 社会医療法人)北九州病院 北九州中央病院 (昭和 60(1985)年～平成 10(1998)年)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画課 課長 (平成 10(1998)年～平成 17(2005)年)</p> <p>同 北九州病院 本部 業務企画部栄養企画 副部長 (平成 17(2005)年～平成 26(2014)年)</p> <p>九州女子大学 家政学部 栄養学科 准教授 (平成 26(2014)年 4 月～平成 28(2016)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成 28(2016)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)</p>  |
| 教育上の業績 | <p>【作成した教科書】</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 第 5 版 講談社 (平成 27(2015)年)</p> <p>(担当部分概要) 第 9 章「公衆栄養プログラムの展開」<br/>保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p> <p>栄養科学シリーズ NEXT シリーズ 公衆栄養学 第 6 版 講談社 (令和元(2019)年)</p> <p>(担当部分概要) 第 9 章「公衆栄養プログラムの展開」<br/>保健所、本庁におけるプログラム展開、高齢期を対象としたプログラム</p> <p>臨床栄養学実習 medical nutrition diet manual 初版 株式会社みらい (令和 2(2020)年)</p> <p>(担当部分概要) 第 1 部「治療食献立の基礎」<br/>治療食と献立、献立作成までの計画</p>   |
| 主な研究活動 | <p>【学術論文】</p> <p>1. 「Modulatory effects of <i>Bifidobacterium longum</i> BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding」<br/>World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170<br/>共著者名 : J.Kondo, A.Abe, K. Shimizu, K. Ogawa, T. Taeko<br/>[共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要)<br/>経管栄養で管理している高齢者を対称に、試験 1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の 2 群に分け、試験 2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の 3 群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。</p> <p>2. 「酸味調味料の物性特性と嚥下困難者の栄養状態」<br/>日本医療企画 Human Nutrition 2013.12 月 No.27 80-89<br/>共著者名 : 近藤順子、原田薫雄、真溪香代子、道脇幸代、下田妙子<br/>[共同研究につき担当部分抽出不可能]</p> <p>(概要)<br/>嚥下機能が低下した患者に提供する料理において酢は揮発性成分が咽頭を刺激し「むせ」を誘発する。揮発性の酸の相対存在量を削減した調味料を使用した料理の 摂取がおよぼす嚥下機能や栄養状態への影響を調査した。</p> |



### 3. 「高齢糖尿病患者に対する L-イソロイシン配合濃厚流動食の血糖コントロールおよび栄養状態におよぼす影響」

日本臨床栄養協会 原著論文 New Diet Therapy 2014.12 月.Vol30 No.3 15-22

共著者名：近藤順子、岡田昌子、吉岡承美、遠藤美香、宮本美知子、蓮尾裕

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

#### (概要)

耐糖能異常を伴う高齢経管栄養患者において、アミノ酸 L-イソロイシンが配合されたディムベストを使用した症例において血糖コントロールと栄養状態の維持改善の結果をまとめた。

### 4. 「二次性サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助飲料摂取の併用効果」

東筑紫短期大学 研究紀要 48、299-307、2017

共著者名：近藤順子、阿部亜希恵、岡田昌子、川添恵理子、吉岡承美、古谷恭子、白幡聰

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

#### (概要)

経管栄養を施行されている二次性サルコペニア肥満患者を対象に、ベッドサイドリハビリテーションにビタミン D と BCAA の摂取を併用することで骨格筋の減少を抑えることが可能であるか、介入試験の結果をまとめた。

### 5. 「女子学生のボディ・イメージの願望と現状について」

東筑紫短期大学 研究紀要 48、321-331、2017

共著者名：南里美、遠藤景子、近藤順子

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

#### (概要)

女子学生のボディ・イメージやその願望理由など意識調査を行い、現状の体組成や BMI との差異、隠れ肥満の状況を把握し、誤った体型認識の是正と適正体重の維持と食生活改善に繋げる取組みをまとめた。

### 6. 「Effects of paraprobiotic *Lactobacillus paracasei* MCC1849 supplementation on symptoms of the common cold and mood states in healthy adults」

Journal : Beneficial Microbes: 9 (6) - Pages: 855 – 864、2018

共著者名：M. Murata, J. Kondo, N. Iwabuchi, S. Takahashi, K. Yamauchi, F. Abe, K. Miura

[共同研究につき担当部分抽出不可能]

#### (概要)

健康な成人女性を対象に *L.paracasei* MCC1849 菌末 1 包あたり 100 億個あるいは 300 億個を摂取する群およびプラセボ群をランダムに分け、12 週間摂取後、風邪に関する自覚症状の記録および気分プロフィール検査を実施し、その効果について結果をまとめた。

#### 【学会発表】

#### 1. クオリティを考慮した[お惣菜ムース]既製品化への検討

第 13 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

(平成 19(2007)年 9 月)

メーカー依頼の嚥下食「お惣菜ムース」開発までのプロセスを報告。

#### 2. 北九州古賀病院での食形態改善の取り組み

第 16 回日本療養病床協会全国研究会

(平成 20(2008)年 9 月)

きざみ食廃止の試みについて報告。

#### 3. 病院職員を対象とした健診結果から肥満、血糖、中性脂肪の比較検討

第 55 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 20(2008)年 9 月)

病院職員の健診結果約 2,000 名のデータから BMI から肥満に該当する人の血糖と中性脂肪の値を健常者と比較検討した結果を報告。

#### 4. 嚥下食における医療連携

第 34 回福岡県栄養改善学会

(平成 20(2008)年 9 月)

嚥下食の物性評価を実施し、段階別障害レベルと合わせて地域で連携する7対応について報告。

#### 5. 病院職員を対象とした健診結果の階層化と階層別食習慣との関連

第 56 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 21(2009)年 9 月)

750 名の健診結果から BMI を 5 群に階層化し生化学検査結果および食習慣との関連を報告。

**6. メタボリックシンドローム群の BMI と食習慣との関連**

第 13 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 22(2010)年 1 月)

メタボリックシンドローム群と健常群の BMI を基本にして生化学検査結果と食習慣の関連について報告。

**7. 新規な介護用ソースを用いた嚥下食メニューの理化学物性と嚥下適正評価**

第 16 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

(平成 22(2010)年 9 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

**8. 高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果**

第 57 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 22(2010)年 9 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 5 週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果を報告。

**9. プロバイオテックビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討**

第 14 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 23(2011)年 1 月)

嚥下障害者用のソースを用いて作成した嚥下食の物性評価と VF 検査による摂取状況から適正評価を行った結果を報告。

**10. プロバイオテックビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便通性状に対する影響の検討**

第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 24(2012)年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめ。

**11. Effects of the enteral nutrition containing probiotic Bifidobacterium longum BB536 on bowel movement and immunological parameters of the elderly patients**

第16回 International Congress of Dietetics (国際栄養士会議) (平成24(2012)年9月)

【臨床栄養療法部門賞 受賞】

経管栄養で管理している高齢者を2群に分け、プラセボ群とビフィズス菌BB536を16週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告

**12. ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内菌叢におよぼす影響**

第 28 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 25(2013)年 2 月)

経管栄養で管理している高齢者を 3 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。

**13. 経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査**

第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 26(2014)年 2 月)

経管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動での体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。

**14. 寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査**

第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会

(平成 27(2015)年 1 月)

経管栄養で管理している高齢者においてサルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。

**15. 脳卒中クリニカルパスへの歯科専門検診・口腔ケア導入の取組みと効果**

第 62 回日本栄養改善学会学術総会

(平成 27(2015)年 9 月)

誤嚥性肺炎を防止するために、クリニカルパスに歯科医師専門の口腔ケアを導入し栄養状態および血液検査等の調査を実施した。その効果について発表した。

**16. サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果**

第 31 回日本静脈経腸栄養学会学術集会

(平成 28(2016)年 2 月)

サルコペニア肥満患者を対象にリハビリテーションと筋肉合成に関与するビタミン D と分岐鎖アミノ酸を豊富に含む栄養補助食品を組み合わせることで体組成の変化、栄養状態、身体機能への効果について報告した。



|               |   |
|---------------|---|
|               | <p>17. 乳酸菌 <i>Lactobacillus paracasei</i> 菌体の摂取による健康女性の感冒症状に対する効果<br/>日本食品免疫学会2016 (平成28(2016)年11月)<br/><i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849株菌体の継続摂取が健康者の健康状態および気分状態に及ぼす効果について報告した</p> <p>18. Effects of <i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849 supplementation on symptoms of the common cold and mood states in healthy adults: A randomized, double-blind, placebo-controlled trial<br/>International Union of Microbiological Societies (国際生物学連合) 2017 (平成29(2017)年7月)<br/><i>Lactobacillus paracasei</i> MCC1849 株菌体の継続摂取により感冒に罹患しやすい被験者において発症スコアを低減し、前向きで望ましい気分の維持に役立つ効果について発表した。</p>   |
| <p>主な社会活動</p> | <p>【調査研究】厚生労働省 長寿科学総合研究事業（北海道大学 大浦武彦教授）<br/>「褥瘡の予防と治療に関する研究」～栄養介入の効果の検討<br/>(平成 20(2008)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月)</p> <p>(概要)<br/>厚生労働省の研究事業 日本全国横断研究に参画。北九州病院グループにおける対象患者の臨床データをまとめて提出をおこなった。</p> <p>【周防学舎】講師 (実習および講義)<br/>主催 北九州市立年長者研修大学校 (平成 30(2018)年 8 月～令和元(2019)年 8 月)</p> <p>(概要)<br/>高齢者の生きがい、健康、ふれあい、社会参加の推進を目的に行われている研修会の一環として、疾病予防をテーマに調理実習を交え講義を行った。</p>   |
|               | <p>【職務上の実績】</p> <p>1. 脳血管疾患 地域医療連携体制構築 (平成 18(2006)年 4 月～平成 20(2008)年 3 月)<br/>北九州市の脳卒中連携パス稼働の数年前から、急性期・回復期・慢性期の脳卒中連携パスの開発とシステム運用を実施してきた。地域の開業医や地域住民への早期発見・早期治療の啓蒙活動にも参画した。</p> <p>2. 医療材料管理システムの構築 (平成 19(2007)年 4 月～平成 26(2014)年 3 月)<br/>入院患者の高齢化・重症化に伴い医療材料のコストが年々増加傾向にあり、医療材料について発注・棚卸・受払の管理システムの構築、スケールメリットを活かした価格交渉を行い、コスト削減を図った。各施設医療材料発注担当者へABC 分析や在庫回転率による管理体制についても教育指導を実施した運用活用を導入。</p> <p>3. 西日本看護専門学校 栄養学非常勤講師 (平成 20(2008)年 11 月～平成 26(2014)年 3 月)<br/>西日本看護専門学校において 2 年生を対象に「栄養学」の講義を担当。臨床現場で即戦力として役立つように、教科書では知ることができない医療現場での経験を基に授業を展開してきた。また、糖尿病の治療食調理実習など現場での患者教育に活かせる内容の講義を盛り込み実施した。</p> <p>4. 商品開発<br/>メーカーからの協力依頼により商品開発に参画<br/>①「エンジョイゼリー」<br/>製造販売元依頼：森永乳業(株)クリニコ<br/>②「もぐもぐお惣菜ムース」<br/>製造元依頼：熊本県 デリテック(株)<br/>販売：北進産業(株)<br/>③「ジャネフなめらかプラス」(メーカー特許取得)<br/>製造販売元依頼：キューピー(株)<br/>④「豆腐やわらかパテ」<br/>製造販売元依頼：不二精油(株)</p> <p>5. BCP (業務継続計画) 体制整備 (平成 23(2011)年 10 月～平成 26(2014)年 3 月)<br/>大規模な震災発生により医療としての業務継続計画 (BCP) の体制整備について要望が高まり、北九州市での圧倒的介護療養病床の高いシェア率である病院グループについては医療として地域に果たす役割の大きさから、緊急連絡体制の推進および対応すべき基盤となる項目の構築を行った。</p> |





## 【講演活動】

1. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演  
業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成 18(2006)年 10 月)
2. 「北九州病院グループにおける段階嚥下食の対応」講演  
佐賀栄養士セミナー 九州電力 佐賀営業所 (平成 19(2007)年 2 月)
3. 「クオリティを考慮した“お惣菜ムース”既製品化への検討」講演  
業務用電化厨房セミナー 九州電力 鹿児島営業所 (平成 19(2007)年 7 月)
4. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演  
業務用電化厨房セミナー 九州電力 宮崎営業所 (平成 19(2007)年 8 月)
5. 「HACCPに基づく厨房環境の改善」講演  
佐賀栄養士セミナー 佐賀栄養士勉強会 (平成 19(2007)年 9 月)
6. 「厨房環境の改善 実測データを交えて」講演  
業務用電化厨房セミナー 九州電力 北九州イリス (平成 20(2008)年 11 月)
7. 「脳卒中の医療連携」脳外科医師と管理栄養士の取り組み 講演  
医療従事者対象 トークセミナー 北九州商工会議所 (平成 23(2011)年 3 月)
8. 「栄養管理から考える褥瘡対策」講演  
特定医療法人勇愛会 大島病院 褥瘡・NST メンバー対象 (平成 24(2012)年 10 月)
9. 「看護臨床研究の基本から研究発表を行うまで」シリーズ 4 回講演  
門司掖済会病院 看護師対象 (平成 27(2015)年 5 月～平成 28(2016)年 3 月)
10. 「災害時の医療機能継続における栄養士の役割～専門職としての事前準備と緊急時の対応～」  
第 62 回日本栄養改善学会学術総会 ランチョンセミナー座長 (平成 27(2015)年 9 月)  
共 催：西部ガス株式会社
11. 「美味しく食べるために ～食べさせケアに配慮して～」講演  
2018 年 医療・介護福祉食品展示会 セミナー講師 (平成 30(2018)年 10 月)  
共 催：キューピー株式会社

所 属 学 会 日本栄養改善学会会員 (平成 7(1995)年 4 月～現在に至る)  
日本糖尿病協会会員 (平成 10(1998)年 4 月～現在に至る)  
日本病態栄養学会会員 評議員 (平成 12(2000)年 4 月～現在に至る)

受 賞 歴 福岡県栄養士大会 第 27 回栄養改善学会 功労者表彰 (平成 13(2001)年 9 月)  
日本栄養士会 会長表彰 (平成 23(2011)年 9 月)  
第 16 回 International Congress of Dietetics 臨床栄養療法部門賞 (平成 24(2012)年 9 月)

|        |   |
|--------|---|
| 所属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科  |
| 担当科目   | <p>【食物栄養学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学</li> <li>・生徒指導と教育相談</li> <li>・心理学</li> <li>・教職実践演習（栄養教諭）</li> </ul> <p>【保育学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭支援の心理学</li> <li>・教育心理学</li> <li>・心理学</li> <li>・発達心理学</li> </ul>  |
| 専門分野   | <p>■ 心理学</p> <p>■ 臨床心理学分野</p>   |
| 最終学歴   | 九州大学大学院 教育学研究科博士後期課程 単位取得満期退学   |
| 学位     | 教育学修士   |
| 職歴     | <p>福岡大学 学生相談室カウンセラー (昭和 63(1988)年 4 月～平成元(1989)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 非常勤講師 (平成元(1989)年 4 月～平成 11(1999)年 3 月)</p> <p>九州大学教育学部 助手 (平成元(1989)年 4 月～平成 2(1990)年 3 月)</p> <p>九州大谷短期大学 幼児教育学科 専任講師 (平成 2(1990)年 4 月～平成 9(1997)年 3 月)</p> <p>行橋厚生病院 非常勤心理判定員 (平成 5(1993)年 4 月～平成 8(1996)年 3 月)</p> <p>九州大学健康科学センター 非常勤カウンセラー (平成 5(1993)年 4 月～平成 10(1998)年 3 月)</p> <p>福岡市青少年相談センター 嘱託員 (平成 9(1997)年 4 月～平成 11(1999)年 3 月)</p> <p>福岡大学 学生相談室カウンセラー (平成 9(1997)年 4 月～平成 11(1999)年 3 月)</p> <p>松山東雲女子大学 人文学部 人間心理学科 助教授 (平成 11(1999)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月)</p> <p>常磐大学 人間科学部 准教授 (平成 17(2005)年 4 月～平成 19(2007)年 6 月)</p> <p>常磐大学 人間科学部 専任講師 (平成 19(2007)年 7 月～令和 3(2021)年 3 月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和 3(2021)年 4 月～現在に至る)</p> |
| 教育上の業績 | <p>○常磐大学オープンカレッジ「実習で学ぶ、臨床心理学の基礎」 (平成 17(2005)年 5 月)</p> <p>地域の方々に応募書類を配布して、集まって来られた方々に、フォーカシングの実践を行ってもらった。15 回に渡って、受講生にフォーカシングを教授した。</p>  |
| 主な研究活動 | <p>【著書】</p> <p>1. 「クライアント中心療法と体験過程療法 (第 8 章居場所としてのリトリート室)」 (共著)<br/>編著：村山正治・藤中隆久<br/>分担執筆：岩橋宗哉 他 11 名<br/>ナカニシヤ出版 125～134 頁担当 (平成 14(2002)年 7 月)</p> <p>(概要)<br/>第 8 章「居場所としてのリトリート室」では、某大学リトリート室にて鬱病、統合失調症、対人恐怖症など 6 例の学生と関わった事例報告である。専門の臨床家や医者のある背景のもとで、比較的自由に学生と話し、遊び、合宿したりした。居場所としてのリトリート室での臨床実践は、医療・治療モデルではなく、コミュニティ的意識を導入した諸活動が必要であることを論述した。</p> <p>2. 「マンガで学ぶフォーカシング入門」 (共著)<br/>監修：村山正治<br/>編著：福盛英明、森川友子<br/>分担執筆：村山尚子 他 16 名<br/>誠心書房 125～134 頁担当 (平成 17(2005)年 6 月)</p>   |

**3. 「家族のための心理学」 (共著)**

編著：小林芳郎 大石英史 他41名

保育出版社 (第6章1、2節) 担当 (平成17(2005)年4月)

**【学術論文】****1. 「ペテロの慟哭」 (単著)**

松山東雲女子大学人文学部紀要第12巻 71-80頁 (平成16(2004)年3月)

## (概要)

ペテロはイエスの第一番目の弟子として名高い。しかしながら初期の弟子を含めて、全員、イエスを裏切ってしまう。ペテロも、「鶏が鳴く前に3度私を否定する」という厳しい予言をつきつけられる。果たして、予言は成就し、ペテロは激しい悔恨にくれる。その絶望は、霊身のイエスを見て、大いなる堅い信仰へと変貌する。筆者は非キリスト者の立場から、この辺の状況を主に聖書や他の方々の詩や意見を下に考察した。

**2. 「日本昔話において結果の相違を引き起こす主体に関する考察****—他者に原因を帰属できる場合— (単著)**

松山東雲女子大学人文学部人間心理学科 人間心理第5号 (平成17(2005)年3月)

## (概要)

日本昔話の「隣の爺」型に属する類話においては、必ず欲をかいたり、真似をして同じ幸福を得ようとした隣の爺婆が、かならず失敗することになる。この際、罰を与えている主体は、どこに帰属すればいいのかについて考察してみた。本論では他者が罰を与えたと考えられる昔話を元に、考察を行ってみた。

**3. 「日本昔話において結果の相違を引き起こす主体に関する考察 (2)****—自己に原因を帰属できる場合— (単著)**

常磐大学人間科学部紀要 人間科学第27巻第1号 21-30頁 (平成21(2009)年10月)

## (概要)

本論は、罰を与える主体を自分に帰属できる昔話を元にして考察を行ってみた。ここでは、真似の失敗と意図性と非意図性に大きく分けることができる。真似の失敗では、うっかりして失敗してしまったものと欲張って失敗したもの、真似の手続きを無視したものに類別できる。意図性と非意図性の問題は人間の日常生活によくあることである。「瘤取り」では、瘤をとってもらおうと緊張して踊った隣の爺さんは罰を与えられる。自然に楽しく踊った正直爺さんは瘤を取ってもらえるのである。「大年の客」にも意図性と非意図性の悲喜劇が表れている。

**4. 『特集「総合人間科学学会の巣立ち」愛着行動研究会の紹介』 (単著)**

常磐大学人間科学部紀要 人間科学第27巻第2号 (平成22(2010)年3月)

## (概要)

愛着と虐待の問題は、古今に渡って大きな問題となっている。筆者の居る茨城県では、特に虐待の問題が大きく取り上げられる場合が多い。愛着の研究を始めたボウルビイの理論や多くの研究者が愛着と愛着不全の問題について論じている。筆者らは、そういった虐待児のトラウマを癒す手段としての愛着療法について研究を行っている。本論ではまだ立ち上げたばかりの研究会の報告を行った。

**5. 「フォーカシング教示法に関する考察」 (単著)**

常磐大学人間科学部紀要 人間科学第28巻第2号 (平成23(2011)年3月)

## (概要)

カール・ロジャースの弟子であり協働研究者であったユージン・ジェンドリンは、ロジャースの経験概念をよりダイナミックな体験課程という概念として捉えなおし、実践的な概念として発展させた。この技法はフォーカシングと呼ばれ、現在では世界中の多くの研究者や実践者たちが種々なやり方を開発・発展させている。その辺の歴史から筆者自身のやり方まで考察してみた。

**6. 「大学の授業でフォーカシングを教える試み」 (単著)**

常磐大学人間科学部紀要 人間科学第29巻第1号 (平成23(2011)年10月)

## (概要)

筆者は常磐大学の臨床心理学実験実習の授業で、描画フォーカシングを教えているが、その5回分の内容を提示して、レポートをもとにして、学生のアンケートから抜粋して、考察してみた。技法としては村山先生、土江正司氏、得丸さと子氏の技法などを利用して行った経緯を示した。



|        |   |
|--------|---|
|        | <p>7. 「日本昔話において結果の相違を引き起こす主体に関する考察 (3) 一複合型一」(単著)<br/>常磐大学人間科学部紀要 人間科学第 38 巻第 1 号 51-55 頁 (令和 2(2020)年 9 月)</p> <p>(概要)<br/>隣の爺型に分類される昔話においては、罰を与える主体を他者に帰属できる他者要因と自己に帰属できる自己要因とその両方が見られる複合型に分けることができる。有名な「花咲か爺」は、この複合型に分類できる。正直爺と欲張り爺の行為は、明らかに異なり、そこは自己要因と言えるのであるが、犬も結果に影響していると考えるので、複合型と考えられる。</p>                            |
|        | <p><b>【学会発表】</b></p> <p>1. 『大学の授業でフォーカシングを教授する方法について考える』(共同発表)<br/>永野勇二・土江正司・得丸さとこ・土井晶子<br/>(主 催 等) 日本人間性心理学会第 29 回大会<br/>(開 催 場 所) 熊本大学<br/>(開催年月日) 平成 22(2010)年 9 月</p> <p>2. 『描画フォーカシングで人格変化を生じたと思われる二事例<br/>一箱イメージ書き込み描画法などを用いて一』(単独発表)<br/>(主 催 等) 日本人間性心理学会第 37 回大会<br/>(開 催 場 所) 人間環境大学<br/>(開催年月日) 平成 30(2018)年 9 月</p> |
| 主な社会活動 | <ul style="list-style-type: none"><li>・日本心理臨床学会 第 25 回大会座長 (関西大学) (平成 18(2006)年 9 月)</li><li>・日本人間性心理学会 第 34 回大会座長 (聖カタリナ大学) (平成 27(2015)年 9 月)</li></ul>   |
| 所属学会   | 日本心理臨床学会会員 (昭和 58(1983)年 4 月～現在に至る)<br>日本人間性心理学会会員 (昭和 58(1983)年 4 月～現在に至る)<br>福岡県臨床心理士会員 (平成 10(1998)年 4 月～平成 11(1999)年 3 月)<br>愛媛県臨床心理士会員 (平成 11(1999)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月)<br>茨城県臨床心理士会員 (平成 17(2005)年 4 月～令和 3(2021)年 3 月)  |
| 受賞歴    | 愛媛フォーカシング研究会 関奉仕財団奨励奨学金受給 (平成 11(1999)年 4 月)<br>愛媛フォーカシング研究会 関奉仕財団奨励奨学金受給 (平成 12(2000)年 4 月)  |



|         |  |  |
|---------|--|--|
| 所 属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科   |  |
| 担 当 科 目 | <b>〔食物栄養学科〕</b><br>・微生物学<br>・基礎化学<br>・生化学<br>・食品衛生学<br>・食品衛生学実験<br>・フードスペシャリスト論<br>・食品の官能評価・鑑別演習<br>・初年次教育・キャリアアップ演習 I   |  |
| 専 門 分 野 | ■ 微生物学   |  |
| 最 終 学 歴 | 筑波大学大学院 農学研究科 応用生物化学専攻 博士課程修了  |  |
| 学 位     | 博士 (農学)  |  |
| 職 歴     | 日本大学生物資源科学部 21 世紀 COE 研究員 (平成 15(2003)年 4 月～平成 19 年(2007)3 月)<br>海洋研究開発機構 ポスドク研究員 (平成 19(2007)年 4 月～平成 22(2010)年 3 月)<br>海洋研究開発機構 研究員 (平成 22(2010)年 4 月～平成 28(2016)年 3 月)<br>海洋研究開発機構 特任技術研究員 (平成 28(2016)年 4 月～平成 29(2017)年 3 月)<br>東京大学 農学生命科学研究科 特任助教 (平成 29(2017)年 4 月～平成 29(2017)年 8 月)<br>海洋研究開発機構 特任技術スタッフ (平成 29(2017)年 9 月～平成 30(2018)年 3 月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (平成 31(2019)年 4 月～令和 4(2022)年 3 月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 教授 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る)  |  |
| 主な研究活動  | <b>【著書】</b><br>『深海深検』(共著) 海泉社 (平成 25(2013)年 7 月)<br>スケーリーフットの生体に関する項目を担当。<br>『環境と微生物の辞典』(共著) 朝倉書店 (平成 26(2014)年 7 月)<br>第 150 頁、深海生物に共生する微生物の項目を担当。<br>『深海生物ビジュアル大図鑑』(共著) 海泉社 (平成 26(2014)年 8 月)<br>スケーリーフットとゴエモンコシオリエビの生体に関する項目を担当。   |  |
|         | <b>【学術論文等】</b><br>Watsuji, T.-o., Nakagawa, S., Tsuchida, S., Toki, T., Hirota, A., Tsunogai, U., and Takai, K.<br><b>Diversity and function of epibiotic microbial communities on the galatheid crab, <i>Shinkaia crosnieri</i>.</b> (ゴエモンコシオリエビに付着する外部共生菌相の多様性と機能) (共著)<br>Microb. Environ., vol. 25, pp. 288-294 (平成 22(2010)年 10 月)<br><b>【概要】</b><br>深海動物の生捕方法を開発することで外部共生研究に生きた宿主動物を用いた $^{13}\text{CO}_2$ のトレーサー実験を導入した。この結果、宿主動物を生け捕りできないことで滞っていた外部共生研究にブレイクスルーを起こし、宿主動物にとって外部共生菌が栄養源であることを間接的に証明することに初めて成功した。<br>担当部分：生捕方法の開発や研究の発想、計画、実施、執筆を行って第一著者と責任著者になった。                              |  |
|         | Watsuji, T.-o., Nishizawa, M., Morono, Y., Hirayama, H., Kawagucci, S., Takahata, N., Sano, Y., and Takai, K.<br><b>Cell-specific thioautotrophic productivity of epsilon-proteobacterial epibionts associated with <i>Shinkaia crosnieri</i>.</b> (ゴエモンコシオリエビに付着するイプシロンプロテオバクテリア細菌の細胞特異的な硫黄酸化の生産性) (共著) PloS one, vol. 7, e46282 (平成 24(2012)年 1 月)<br><b>【概要】</b><br>深海熱水域の無脊椎動物と外部共生する菌相には共通して <i>Sulfurovum</i> 属の細菌が優占することが知られていた。本研究ではゴエモンコシオリエビを用いて外部共生する <i>Sulfurovum</i> が独立栄養性硫黄酸化細菌であることを初めて証明した。これにより、外部共生菌相に独立栄養性硫黄酸化細菌が含まれることが世界で初めて明らかとなった。<br>担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を行って第一著者と責任著者になった。 |  |

Nakamura, K., Watanabe, H., Miyazaki, J., Takai, K., Kawagucci, S., Noguchi, T., Nemoto, S., Watsuji, T.-o., Matsuzaki, T., Shibuya, T., Okamura, K., Mochizuki, M., Orihashi, Y., Ura, T., Asada, A., Marie, D., Meera Koonjul, Singh, M., Beedessee, G., Bhikajee, M., and Tamaki, K.

**Discovery of new hydrothermal activity and chemosynthetic fauna on the Central Indian Ridge at 18°–20°S.**

(中央インド洋海嶺の南緯 18 度-20 度で新しい熱水活動域と化学合成性動物相の発見) (共著)

PLoS one, vol. 7, e32965 (平成 24(2012)年 3 月)

【概要】

本研究はインド洋で新たに見つけた熱水噴出域の熱水と生物相を特徴付けたものである。新たな熱水域ではこれまでに見つかったスケリーフットと異なるものが見つかった。これまでのスケリーフットは体表が硫化鉄で覆われていたが、その硫化鉄層がない白いスケリーフットが見つかった。

担当部分：白いスケリーフットの船上飼育で貢献した。

Konishi, M., Watsuji, T.-o., Nakagawa, S., Hatada, Y., Takai, K., and Toyofuku, T.

**Effects of hydrogen sulfide on bacterial communities on the surface of galatheid crab, *Shinkaia crosnieri*, and in a bacterial mat cultured in rearing tanks.**

(ゴエモンコシオリエビの体表に付着する細菌相や水槽内のバクテリアマットに対する硫化水素の効果) (共著) Microb. Environ., vol. 28, pp. 25-32 (平成 25(2013)年 3 月)

【概要】

本研究では捕獲したゴエモンコシオリエビを硫化水素添加水槽で飼育することで、外部共生菌相中の硫黄酸化細菌を維持しながら飼育できることを示唆した。

担当部分：生け捕りにしたゴエモンコシオリエビを提供し、筆頭著者と共に硫化水素添加水槽を開発した。

Mino, S., Makita, H., Toki, T., Miyazaki, J., Kato, S., Watanabe, H., Imachi, H., Watsuji, T.-o., Nunoura, T., and Kojima, S.

**Biogeography of *Persephonella* in deep-sea hydrothermal vents of the Western Pacific.**

(西太平洋の深海熱水噴出孔における *Persephonella* の生物地理学) (共著)

Front. Microbiol., vol. 4, doi: 10.3389/fmicb.2013.00107 (平成 25(2013)年 4 月)

【概要】

本研究では沖縄トラフと南マリアナトラフの熱水噴出域から独立栄養性化学合成細菌である *Persephonella* を 36 株単離し、それらの遺伝的多様性をゲノムレベルで捉えることで地域的な種分化が起こっていることを確かめた。

担当部分：縄トラフと南マリアナトラフにおける熱水のサンプリングで貢献した。

Kawagucci, S., Miyazaki, J., Nakajima, R., Nozaki, T., Takaya, Y., Kato, Y., Shibuya, T., Konno, U., Nakaguchi, Y., Hatada, K., Hirayama, H., Fujikura, K., Furushima, Y., Yamamoto, H., Watsuji, T.-o., Ishibashi, J.-i., and Takai, K.

**Post-drilling changes in fluid discharge pattern, mineral deposition, and fluid chemistry in the Theya North hydrothermal field, Okinawa Trough.**

(沖縄トラフの伊平屋北熱水フィールドの流体噴出パターン、鉱物沈殿物、流体化学についての掘削後の変化) (共著) Geochem. Geophys. Geosyst., vol. 14, p. 4774-4790 (平成 25(2013)年 11 月)

【概要】

掘削船「ちきゅう」によって沖縄トラフの熱水域が掘削された結果、深海で世界初の人工熱水が噴出した。本研究では人工熱水の組成の変遷を 2 年間に渡って調べた。

担当部分：熱水成分の一つである硫化水素の濃度を測定することで本研究に貢献した。

Nakagawa, S., Shimamura, S., Takaki, Y., Suzuki, Y., Murakami, S.-i., Watanabe, T., Fujiyoshi, S., Mino, S., Sawabe, T.-o., Maeda, T., Makita, H., Nemoto, S., Nishimura, S.-I., Watanabe, H., Watsuji, T.-o., and Takai, K.

**Allying with armored snails: the complete genome of gammaproteobacterial endosymbiont.**

(鎧貝と共生するガンマプロテオバクテリアの内部共生細菌の完全ゲノム) (共著)

ISME J., vol. 8, pp. 40-51 (平成 26(2014)年 1 月)

【概要】

本研究ではインド洋の深海性巻貝スケリーフットが体内に宿す内部共生菌のゲノム解読とスケリーフットにおける炭酸固定の活性測定が行われた。これにより、その内部共生菌は独立栄養性化学合成細菌であることや宿主の栄養源であることが明らかとなった。

担当部分：インド洋での生体サンプルの捕獲で貢献した。



Watsujii, T.-o., Yamamoto, A., Takaki, Y., Ueda, K., Kawagucci, S., and Takai, K.

**Diversity and methane oxidation of active epibiotic methanotrophs on live *Shinkaia crosnieri***

(ゴエモンコシオリエビに付着するメタン酸化細菌のメタン酸化活性と多様性)

(共著) ISME J., vol. 8, pp. 1020–1031 (平成 26(2014)年 5 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビの体毛に付着する生きた細菌の分子系統解析やメタン酸化活性の測定を行った。これらの結果、現在においてもゴエモンコシオリエビは活性を有するメタン酸化細菌を体に付着させていることが証明された唯一の動物となった。本論文は微生物学の専門誌で最もインパクトのある nature の姉妹紙に掲載された。

担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を主に行って第一著者と責任著者になった。

Konishi, M., Nishi, S., Fukuoka, T., Kitamoto, D., Watsujii, T.-o., Nagano, Y., Yabuki, A., Nakagawa, S., Hatada, Y., and Horiuchi, J.-i.

**Deep-sea *Rhodococcus* sp. BS-15, lacking the phytopathogenic *fas* genes, produces a novel glucotriose lipid biosurfactant.**

(植物病原性 *fas* 遺伝子を欠損し、新規のグルコトリオース脂質バイオサーファクタントを生産する深海性 *Rhodococcus* sp. BS-15)

(共著) Mar. Biotechnol., vol. 16, pp. 1929-1940 (平成 26(2014)年 8 月)

【概要】

本研究では深海でサンプリングしたグラム陽性菌 *Rhodococcus* sp. BS-15 が新規の生物系解明活性剤を生産することを見出した。

担当部分：本菌を含む堆積物を深海でサンプリングし、開発したメタン添加水槽でその堆積物を維持・管理することで研究に貢献した。

Watsujii, T.-o., Takano, H., Yamabe, T., Tamazawa, S., Ikemura, H., Ohishi, T., Matsuda, T., Shiratori-Takano, H., Beppu, T., and Ueda, K.

**Analysis of the tryptophanase expression in *Symbiobacterium thermophilum* in a coculture with *Geobacillus stearothermophilus*.**

(*Geobacillus stearothermophilus* との共培養における *Symbiobacterium thermophilum* のトリプトファナーゼ発現の解析)

(共著) Appl. Microbiol. Biotechnol., vol. 98, pp. 10177-10186 (平成 26(2014)年 12 月)

【概要】

共生細菌 *Symbiobacterium thermophilum* (ST) は生育支持菌 *Geobacillus stearothermophilus* が生産する生育因子によって増殖が活性化される。本研究では生育因子が二酸化炭素とアンモニアであることを突き止め、それらを ST に与えるとトリプトファナーゼの発現が活性化されることを明らかにした。

担当部分：研究の発想、計画、実施を主に行って第一著者になった。

Watsujii, T.-o., Yamamoto, A., Motoki, K., Ueda, K., Hada, E., Takaki, Y., Kawagucci, S., and Takai, K.

**Molecular evidence of digestion and absorption of epibiotic bacterial community by deep-sea crab *Shinkaia crosnieri*. (ゴエモンコシオリエビによる外部共生菌の消化と吸収の分子的証明)** (共著)

ISME J., vol. 9, pp. 821–831 (平成 27(2015)年 4 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビが体毛に付着する外部共生細菌を摂餌によって栄養源とすることを実証した。これにより、無脊椎動物と外部共生菌間に栄養的な共生が存在することを世界で初めて実証した。本論文は菌類を含む微生物学の専門誌で最もインパクトのある nature の姉妹紙 (ISME J) に掲載された。

担当部分：研究の発想、計画、実施、執筆を行って第一著者と責任著者になった。

Fujiyoshi, S., Tateno, H., Watsujii, T.-o., Yamaguchi, H., Fukushima, D., Mino, S., Sugimura, M., Sawabe, T., Takai, K., and Sawayama, S.

**Effects of Hemagglutination Activity in the serum of a deep-sea vent endemic crab, *Shinkaia crosnieri*, on non-symbiotic and symbiotic bacteria.**

(非共生細菌及び共生細菌に対するゴエモンコシオリエビの血清の血球凝集活性の効果)

(共著) Microb. Environ., vol.3, pp. 228-234 (平成 27(2015)年 9 月)

【概要】

深海の固有甲殻類ゴエモンコシオリエビは腹側の体毛に付着する外部共生細菌を摂餌して栄養源としている。本研究ではゴエモンコシオリエビの血リンパ成分が外部共生菌と特異的に結合することを明らかにした。この結果より、ゴエモンコシオリエビの血リンパ中成分は共生細菌の獲得・維持または生体防御に重要な機能を有することが示唆された。

担当部分：ゴエモンコシオリエビの捕獲や血リンパ成分の採取において貢献した。



Thornton B., Bodenmann A., Pizarro O., Williams S., Friedman A., Nakajima R., Takai K., Motoki K., Watsuji T.-o., Hirayama H., Matsui Y., Watanabe H. and Ura T.

**Biometric assessment of deep-sea vent megabenthic communities using multi-resolution 3D image reconstructions.**

(多重解像度 3D イメージ再構築を用いた深海熱水性大型底生動物のバイオメトリック評価) (共著)

Deep Sea Res. Part I Oceanogr. Res. Pap., vol. 116, PP. 200–219. (平成 28(2016)年 1 月)

【概要】

沖縄トラフにおける伊平屋北熱水フィールドの NBC サイト (1.2 ha) を海底より 8 m の高度から潜水艇の底に取付けた 3D スキャン装置とカメラで撮影することで、NBC サイトにゴエモンコシオリエビが 47, 335 匹存在することや、全有機炭素分析によって NBC サイトのゴエモンコシオリエビのバイオマスが 42 kg-C と見積もられることなどを示した。

担当部分：ゴエモンコシオリエビの捕獲と全有機炭素分析を行った。

Kawagucci S., Miyazaki J., Noguchi T., Okamura K., Shibuya T., Watsuji T.-o., Nishizawa M., Watanabe H., Okino K., Takahata N., Sano Y., Nakamura K., Shuto A., Abe M., Takaki Y., Nunoura T., Koonjul M., Singh M., Beedessee G., Khishma M., Bhojroo V., Bissessur D., Kumar L. S., Marie D., Tamaki K. and Takai K.

**Fluid chemistry in the Solitaire and Dodo hydrothermal fields of the Central Indian Ridge.**

(中央インド洋海嶺におけるソリティア及びドードー熱水フィールドの流体化学) (共著)

Geofluids, vol. 16, PP. 988-1005. (平成 28(2016)年 1 月)

【概要】

本研究ではこれまでに発見した中央インド洋海嶺のソリティア熱水フィールドとドードー熱水フィールドで噴き出す熱水を無機化学的に分析し、特徴付けた。

担当部分：それぞれのフィールドの熱水に含まれる硫化水素濃度の分析を行なった。

Nozaki T., Ishibashi J., Shimada K., Nagase T., Takaya Y., Kato Y., Kawagucci S., Watsuji T.-o., Shibuya T., Yamada R., Saruhashi, T., Kyo, M and Takai K.

**Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents.**

(人工熱水噴出孔における鉱物沈殿物の急速な成長) (共著)

Scientific Reports, vol. 6, doi: 10.1038/srep22163 (平成 28(2016)年 2 月)

【概要】

沖縄トラフの熱水域を掘削船「ちきゅう」で掘削して得られた深海人工熱水噴出孔では短期間でチムニーが生成されることが分かった。本研究ではそのチムニーの全岩化学分析を行うことで、金、銀、銅、亜鉛など有用金属元素が高濃度で含まれていることを明らかにした。

担当部分：人工熱水噴出孔に生成したチムニーの採取に貢献した。

Watsuji T.-o., Hada E., Miyazaki M., Ichimura M. and Takai K.

***Thiomicrospira hydrogeniphila* sp. nov., a novel aerobic, hydrogen- and sulfur-oxidizing chemolithoautotroph isolated from a seawater tank containing a block of beef tallow.**

(牛脂を含む海水培養槽から単離された新種の好氣的、水素酸化性、硫酸酸化性化学合成細菌 *Thiomicrospira hydrogeniphila*) (共著)

Int. J. Syst. Evol. Microbiol., vol. 66, PP. 3688-3693. (平成 28(2016)年 9 月)

【概要】

培養槽の海水に牛脂を加えて、硫酸酸化細菌を集積し、そこから新種の硫酸酸化細菌を単離して特徴付けた。硫酸酸化細菌の集積や単離では申請者が持つ栄養学的知見、微生物制御技術、単離培養技術を活かした。特徴付けでは分子生物学的手法を用いた系統解析、増殖速度の算出、ビタミン要求性試験などを行った。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

Mino S., Nakagawa S., Makita H., Toki T., Miyazaki J., Sievert S. M., Polz M. F., Inagaki F., Godfroy A., Kato S., Watanabe H., Nunoura T., Nakamura K., Imachi H., Watsuji T.-o., Kojima S., Takai K. and Sawabe T.

**Chemolithoautotroph *Sulfurimonas* at deep-sea hydrothermal vents.**

(深海熱水噴出域において普遍的に存在する中温性化学合成細菌 *Sulfurimonas* の流行性)

(共著) ISME J, vol.11, PP. 909–919. (平成 29(2017)年 4 月)

【概要】

独立栄養性硫酸酸化細菌の *Sulfurimonas* は熱水噴出域に普遍的に存在するが、本研究ではより詳細な系統解析を施すことで、普遍的に見られる *Sulfurimonas* にも地理的な特異性があること示した。

担当部分：沖縄トラフと南マリアナトラフにおける熱水のサンプリングで貢献した。





Watsuji T.-o., Tsubaki R., Chen C., Nagai Y., Nakagawa S., Yamamoto M., Nishiura D., Toyofuku T. and Ken Takai K.

**Cultivation mutualism between a deep-sea vent galatheid crab and its chemosynthetic epibionts.**(深海コシオリエビと化学合成性外部共生菌間の栽培的相利共生) (共著)

Deep Sea Res. Part I Oceanogr. Res. Pap., vol.127, pp.13-20 (平成 29(2017)年 4 月)

【概要】

本研究ではゴエモンコシオリエビは付属肢で起こした水流を体に付着する化学合成細菌に与えて、その代謝活性を促進させることを実験室レベルで証明した。これまでに宿主動物が付着性化学合成細菌の代謝活性を促進させる実験的証拠はなかったことから、本研究は付着性化学合成細菌を宿主動物が栽培することを強く示唆する初めての論文となった。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

藤吉奏, 和辻智郎

**深海動物に付着する体外共生菌の機能と役割の解明**(共著)

生物科学 vol. 69(4), pp. 231-236. (平成 30(2018)年 7 月)

【概要】

世界の深海熱水域には体に細菌（外部共生菌）を付着させた動物が繁栄している。これまでに申請者はゴエモンコシオリエビを用いて外部共生菌相中に硫黄酸化細菌やメタン酸化細菌が存在することや宿主動物が外部共生菌を収穫し、栄養源とすることを世界に先駆けて実証した。

本論文ではゴエモンコシオリエビの研究を通じて深海外部共生研究が抱える主要な問題を解決してきた点を述べた。

Maruyama T., Watsuji T.-o., Takahashi T., Kayama Watanabe H., Nagai Y., Fujiwara Y., Toyofuku T., Nemoto S., Koyano Y., and Thornton B.

***In situ* vital staining for chasing the galatheid crab *Shinkaia crosnieri* on deep-sea floor**  
(深海底に生息するゴエモンコシオリエビを追跡するための現場生染色) (共著)

JAMSTEC Rep. Res. Dev., vol. 27, pp.1-11 (平成 30(2018)年 9 月)

【概要】

生かした状態でゴエモンコシオリエビの体毛や外骨格を Coomassie Brilliant Blue R250 (CBB)で良く染色できることが分かった。また、染色後の個体は飼育下でその色を5ヶ月間以上保ち、8ヶ月間以上生きた。深海の現場で CBB 染色した個体は染色して3日間後においても生息場所をほとんど移動しないことが分かった。

担当部分：生きたゴエモンコシオリエビの供与と飼育、論文の校閲を担当した。

Watsuji T.-o., Motoki K., Hada E., Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T.

Yamamoto H. and Takai K.

**Compositional and functional shifts in the epibiotic bacterial community of *Shinkaia crosnieri* Baba & Williams (a squat lobster from hydrothermal vents) during methane-fed rearing** (メタン添加水槽で飼育したゴエモンコシオリエビの外部共生菌の菌相構造と機能の変遷) (共著)

Microb. Environ., vol.33(4), pp. 348-356 (平成 30(2018)年 12 月)

【概要】

ゴエモンコシオリエビは腹側の体毛に硫黄酸化細菌とメタン酸化細菌を付着共生させている。本研究ではメタン添加水槽で飼育したゴエモンコシオリエビが体毛の菌相から硫黄酸化細菌を失い、メタン酸化細菌を維持することを示した。本研究は化学合成細菌を含む外部共生菌相の構造が環境に強く影響されることを初めて示す論文となった。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者及び責任著者になった。

Okada, S., Chen, C., Watsuji, T.-o., Nishizawa, M., Suzuki, Y., Sano, Y., Bissessur, D., Shigeru Deguchi, S. and Takai, K.

**The making of natural iron sulfide nanoparticles in a hot vent snail** (共著)

Proc. Natl. Acad. Sci. USA vol. 116 (41), pp. 20376-20381 (令和元(2019)年 9 月)

【概要】

インド洋の深海熱水域に生息する巻貝であるスケーリーフットの貝殻やウロコは硫化鉄で覆われているが、その生成機構は不明であった。本論文ではスケーリーフット自身が放出した硫黄成分と環境中の鉄イオンが反応して、硫化鉄の結晶粒子を作り出すことを明らかにした。

担当部分：研究の計画、現場環境に貝殻や鱗の設置などを行った。





Miyazaki, J., Ikuta, T., Watsui, T.-o., Abe, M., Yamamoto, M., Nakagawa, S., Takaki, Y., Nakamura, K. and Takai, K.

**Dual energy metabolism of the Campylobacterota endosymbiont in the chemosynthetic snail *Alviniconcha marisindica*** (共著)

ISME J, vol.14, PP. 1273–1289. (令和2(2020)年2月)

【概要】

深海熱水域に生息する巻貝であるアルビン貝は、エラに内部共生する化学合成細菌を利用して硫酸酸化だけでなく、水素酸化を行うことを実験的に初めて証明した。

担当部分：内部共生菌の硫酸酸化活性や水素酸化活性を測定した

Sun J., Chen C., Miyamoto N., Li R., Sigwart J. D., Xu T., Sun Y., Wong W. C., Ip, C. H. J., Zhang W., Lan Y., Bissessur D., Watsui T.-o., Watanabe H., Takaki, Y., Ikeo, K., Fujii, N., Yoshitake, K., Jian-Wen. Qiu, J., Takai, K. and Qian, P.-Y

**The Scaly-foot Snail genome and implications for the origins of biomineralised armour**

Nature Communications, vol.11, 1657 (令和2(2020)年4月)

【概要】

インド洋の深海熱水域に生息するスケリーフットは巻貝であるにもかかわらず鱗をもつというユニークな特徴を有する。本論文ではスケリーフットの全ゲノムの解読に成功し、スケリーフットの硬組織(貝殻と鱗)形成に関与する可能性のある25の転写因子を同定した。そして、これらの転写因子はスケリーフットの鱗特有ではなく、カンブリア爆発まで遡れる硬組織形成に広く関わる一連の遺伝子「ツールキット遺伝子」であり、そのツールキットの使い方や使う場所が変わることで様々な硬組織が進化してきたことが示唆された。

担当部分：サンプルの提供と論文の校閲を担当した。

Motoki K., Watsui T.-o., Takaki Y., Takai K. and Iwasaki W.

**Metatranscriptomics by *In Situ* RNA Stabilization Directly and Comprehensively Revealed Episymbiotic Microbial Communities of Deep-Sea Squat Lobsters**

Am Soc Microbiol, vol. 5, e00551-20 (令和2(2020)年10月)

【概要】

生物のRNAは非常に分解されやすいことから、環境微生物学においてRNA解析を行う場合にはサンプリング直後にRNAを固定し、その分解を防ぐことが望まれる。そこで、本論文では新たに開発した装置を用いて深海微生物のRNAを現場固定したものと船上固定もので比較解析した。その結果、どのような細菌が固定方法に影響を受けるのかを明らかにした。

担当部分：研究計画、現場RNA固定法の開発と実施、論文の校閲を担当した。

Watsui, T.-o., Naka, A., Morita, Y. and Kurahashi M.

**Effect of temperature and dissolved oxygen on gravity sedimentation of the unicellular alga *Dunaliella salina***

Ann. Microbiol. vol. 71, Article number: 25 (令和3(2021)年7月)

【概要】

微細藻類バイオマスは有望なバイオ燃料と注目されるが、培養後に微細藻類を回収するコストの高さが障壁となっている。本論文では、微細藻類であるドナリエラの重力沈殿による回収率を好気条件と嫌気条件で経時的に観測した。そして、ドナリエラの回収率に酸素濃度は影響しないことや遮光するだけで効果的にドナリエラの沈殿物を得られることを示した。

担当部分：研究の発想、計画、実施、論文の執筆を行って第一著者になった。

【その他論文等】

上田賢志, 高野英晃, 白鳥初美, アスカー・ダラル, 和辻智郎, 別府輝彦

「見えない微生物とその機能を刺激する

—普遍的な環境因子との関わりに着目した新しい取り組み—」(共著)

バイオインダストリー, vol. 25, pp. 47-56 (平成20(2008)年8月)

【概要】

共生細菌 *Symbiobacterium thermophilum* (ST) と生育支持菌 *Geobacillus stearothermophilus* の微生物間共生において二酸化炭素が介在することが示唆されたが、培養実験から生育に二酸化炭素を要求する新規の微生物が多く検出された。このことから二酸化炭素を介した微生物間共生の普遍性を示唆することを述べた。



## 「熱水噴出域への適応と共生細菌」(単著)

海洋と生物, vol. 32(2), pp. 117-122 (平成 22(2010)年 4 月)

## 【概要】

世界の深海熱水噴出孔の周囲には細菌と共生した動物が存在するが、宿主動物-細菌間共生の特徴から内部共生と外部共生に分けられる。本論文ではその二つの共生についての知見をまとめた。

上田賢志, 和辻智郎, 白鳥初美, 高野英晃, 西田洋巳, 別府輝彦

## 「シンビオバクテリウムにみる微生物共生の深淵」(共著)

生物工学会誌, vol.89(8), pp.469-472 (平成 23(2011)年 8 月)

## 【概要】

共生細菌 *Symbiobacterium thermophilum* (ST)はその単独培養において二酸化炭素を要求することが分かった。そして二酸化炭素インキュベーターを用いた培養実験から生育に二酸化炭素を要求する微生物が多く存在することが明らかとなった。このことから二酸化炭素を介した微生物間共生は特別なことではなく、普遍的である可能性を述べた。

## 「深海外部共生研究分野の成果と展望」(単著)

日本微生物生態学会誌, vol. 32, pp. 4-5. (平成 29(2017)年 4 月)

## 【概要】

深海外部共生研究の長年の謎であった外部共生菌の化学合成性機能や栄養源としての役割をゴエモンコシオリエビを用いて解き明かしてきた歴史と今後の深海外部共生研究の展望を述べた。

## トピックス「深海で営まれる未知の“農業”、餌を自家栽培するエビ」(単著)

バイオサイエンスとインダストリー, vol. 76, pp. 38-39. (平成 30(2018)年 1 月)

## 【概要】

これまでに宿主動物が付着性化学合成細菌の代謝活性を促進させる実験的証拠はなかった。本論文ではゴエモンコシオリエビが付着性化学合成細菌に与えて、その代謝活性を促進させることを実験室レベルで証明したことやゴエモンコシオリエビが餌となる付着性化学合成細菌を宿主動物が栽培する可能性が高いことを述べた。

## 目で見えるバイオ「深海エビに摂食された腸内細菌を見る」(単著)

バイオサイエンスとインダストリー, vol. 76, pp. 8-9. (平成 30(2018)年 1 月)

## 【概要】

ゴエモンコシオリエビの腹側の体毛に付着する外部共生菌をクリスタルバイオレットで青く染めてから 24 時間飼育すると、ゴエモンコシオリエビの腸内に染色菌体が見出された。この方法でゴエモンコシオリエビが外部共生菌を食べていることを直接的に証明した。

## 【学会発表等】

## 「環境変動がもたらすゴエモンコシオリエビの外部共生微生物相の変遷」

和辻智郎, 中川聡, 土田真二, 北田真, 高井研

日本農芸化学会 2008 年度大会, 名古屋 (平成 20(2008)年 3 月)

「*Symbiobacterium thermophilum* の共生依存的な Trp 代謝とその役割」

和辻智郎, 山部智哉, 玉澤聡, 池村宏香, 上田賢志, 別府輝彦

日本農芸化学会 2009 年度大会, 名古屋 (平成 20(2008)年 3 月)

「新規 *Symbiobacterium* 属細菌の分離」

山田和音, 杉原孝文, 和辻智郎, 工藤卓二, 上田賢志, 別府輝彦

日本農芸化学会 2010 年度大会, 名古屋 (平成 20(2008)年 3 月)

## 「メタン供給深海生物飼育水槽の開発とメタン酸化菌共生性シンカイヒバリガイのメタン消費特性」

平山仙子, 吉田尊雄, 土岐知弘, 和辻智郎, 宮崎淳一, 牧田寛子, 高井研, 掘越弘毅

第 24 回日本微生物生態学会大会, 札幌 (平成 20(2008)年 11 月)

## 「付着性細菌とゴエモンコシオリエビにおける化学独立栄養的共生の証明」

和辻智郎, 中川聡, 土田真二, 北田真, 根本卓, 高井研

第 24 回日本微生物生態学会大会, 札幌 (平成 20(2008)年 11 月)

"Compositional and functional transition in epibiotic symbionts of *Shinkaia crosnieri*: morphology, structure, energy and carbon metabolisms during rearing"

Watsui T. and Takai K.

Goldschmidt2009, Davos, Switzerland (平成 21(2009)年 6 月)



「インド洋中央海嶺熱水活動域に生息するアルビン貝の共生菌の系統・機能遺伝子発現・活性解析」

阿部真理子, 宮崎淳一, 和辻智郎, 山本正浩, 高井研

第26回日本微生物生態学会大会、つくば (平成22(2010)年10月)

「世界初、水素酸化の化学合成生物の発見

—インド洋中央海嶺熱水活動域に生息するアルビン貝の機能解析—

阿部真理子, 和辻智郎, 牧田寛子, 島村繁, 高木善弘, 宮崎淳一, 山本正浩, 高井研, 中川聡, 中村謙太郎, 玉木賢策

Blue Earth 2011、東京 (平成23(2011)年3月)

「インド洋中央海嶺熱水活動域と南マリアナ熱水活動域におけるアルビン貝共生菌の系統・機能遺伝子発現・活性解析」

阿部真理子, 和辻智郎, 牧田寛子, 島村繁, 高木善弘, 宮崎淳一, 山本正浩, 高井研, 中川聡, 中村謙太郎

第27回日本微生物生態学会大会、京都 (平成23(2011)年10月)

「深海底熱水活動域に生息する化学合成微生物の遺伝学的多様性と群集構造の解明」

美野さやか, 中川聡, 澤辺智雄, 宮崎淳一, 牧田寛子, 和辻智郎, 中村謙太郎, 加藤真悟, 小島茂明,

渡部裕美, 土岐知弘, 島伸和, 石橋純一郎, 布浦拓郎, 山本正浩, 高井研

Blue Earth 2012、東京 (平成24(2012)年2月)

「熱水生態系における硫化水素の動態を深海用電気化学センサーを用いて探る」

山本正浩, 渡部裕美, 和辻智郎, 高井研, 宮崎 ゆかり, 鈴木 庸平, 石橋 純一郎

Blue Earth 2012、東京 (平成24(2012)年2月)

「飼育環境下における鯨骨周辺の硫化水素の濃度分布と 鯨骨付着サツマハオリムシの行動解析」

篠崎結太, 小西正朗, 和辻智郎, 小栗一将, 河戸勝, 藤原義弘

Blue Earth 2012、東京 (平成24(2012)年2月)

「南部沖縄トラフ多良間海丘に存在する酸化鉄被膜地帯での微生物調査: NT11-18 研究航海概要」

牧田寛子, 山中寿朗, Reimer James Davis, 布浦拓郎, 渡部裕美, 宮崎征行, 望月芳和, 和辻智郎, ほか18名

Blue Earth 2012、東京 (平成24(2012)年2月)

「硫黄酸化細菌と共生している深海底生生物の長期飼育装置の開発」

小西正朗, 和辻智郎, 武田美雪, 中川聡, 秦田勇二, 高井研, 豊福高志

日本農芸化学会2012年度大会、東京 (平成24(2012)年3月)

「ゴエモンコシオリエビと外部共生する  $\epsilon$  プロテオバクテリアの化学独立栄養生産性の細胞特異的検出」

和辻智郎, 西澤学, 諸野祐樹, 平山仙子, 佐野有司, 高畑直人, 高井研

日本農芸化学会2012年度大会、東京 (平成24(2012)年3月)

「深海底熱水活動域に生息する化学合成微生物の群集遺伝構造解明」

美野さやか, 中川聡, 宮崎淳一, 牧田寛子, 和辻智郎, 布浦拓郎, 山本正浩, 高井研, 澤辺智雄

連合大会2012、千葉市 (平成24(2012)年5月)

「飼育培養手法を用いた化学合成系無脊椎動物の共生菌-宿主関連性の実験的検討」

小西正朗, 和辻智郎, 中川聡, 秦田勇二, 高井研, 豊福高志

連合大会2012、千葉市 (平成24(2012)年5月)

「ゴエモンコシオリエビ外部共生菌に対する人工環境における硫化水素の影響」

小西正朗, 和辻智郎, 中川聡, 秦田勇二, 高井研, 豊福高志

若手研究者の集い 夏のセミナー2012、岩沼 (平成24(2012)年6月)

"Enrichment culture for symbiotic microbes and its hosts of chemosynthetic ecosystems in the deep sea: potential as new approach for deep-sea bioresources"

Konishi M., Watsuji T.-o., Nakagawa S., Nagano Y., Yabuki A., Hatada Y., Takai K. and Toyofuku T.

15th International Biotechnology Symposium and Exhibition, Daegu (平成24(2012)年9月)

「深海からの新規バイオサーファクタント生産菌の分離」

小西正朗, 長野由梨子, 矢吹彬憲, 和辻智郎, 中川聡, 秦田勇二

第64回日本生物工学会大会、神戸 (平成24(2012)年10月)

「人工熱水噴出孔に成長した熱水性チムニーの鉱物学的・化学的特徴」

石橋純一郎, 島田和彦, 野崎達生, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 高井研

2012年度資源地質学会、東京 (平成24(2012)年11月)

**"Biodiversity of deep-sea hydrothermal vent fauna and its relationships to environments in Okinawa Trough"**

Hatanabe H., Yamamoto M., Ogura T., Takahashi Y., Yahabi T., Nakamura M., Seo M., Kojima S., Watsuji T.-o. and Takai K.

13th International Deep-Sea Biology Symposium, Wellington, New Zealand (平成 24(2012)年 11 月)

**"Post-drilling hydrothermal vent and associated biological activities seen through artificial hydrothermal vents in the Iheya North field, Okinawa Trough"**

Takai K., Kawagucci S., Miyazaki J., Watsuji T.-o., Ishibashi J., Yamamoto H., Nozaki T., Kashiwabara T. and Shibuya T.

2012 AGU Fall Meeting, San Francisco, California (平成 24(2012)年 11 月)

**「ゴエモンコシオリエビと共生する活動的なメタン酸化細菌の多様性とメタン酸化活性」**

山本麻未, 上田賢志, 川口慎介, 高井研, 和辻智郎

Blue Earth 2013、東京 (平成 25(2013)年 3 月)

**「深海底熱水活動域に生息する化学合成微生物の分布様式と集団構造の解明」**

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 宮崎淳一, 和辻智郎, ほか 12 名

Blue Earth 2014、東京 (平成 26(2014)年 2 月)

**「硫化水素添加水槽を用いたシロウリガイの飼育」**

長井裕季子, 豊福高志, 野牧秀隆, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 滋野修一, 井上広滋, 小西正朗

Blue Earth 2014、東京 (平成 26(2014)年 2 月)

**「シチヨウシンカイヒバリガイ共生系は実験室でも化学合成できるのか?」**

長井裕季子, 豊福高志, 野牧秀隆, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 滋野修一, 井上広滋, 小西正朗

日本地球惑星科学連合 連合大会 2014 年大会、横浜 (平成 26(2014)年 4 月)

**"Global biogeography and population structure of deep-sea vent chemolithoautotrophs inferred from multilocus sequence analysis (MLSA)"**

Mino S., Nakagawa S., Makita H., Toki T., Miyazaki J., Kato S., Watsuji T.-o. ほか 7 名

ISME15, Seoul, South Korea (平成 26(2014)年 8 月)

**「ゴエモンコシオリエビに共生する微生物の役割とは?」**

和辻智郎, 山本麻未, 元木香織, 上田賢志, 羽田枝美, 高木善弘, 川口慎介, 高井研

第 54 回 生命科学夏の学校、湖西 (平成 26(2014)年 9 月)

**「ゴエモンコシオリエビのエサは胸毛に飼うバクテリアである」**

和辻智郎, 山本麻未, 元木香織, 上田賢志, 羽田枝美, 高木善弘, 川口慎介, 高井研

環境微生物系学会合同大会 2014、浜松 (平成 26(2014)年 10 月)

**「共生メタン酸化細菌を維持させてゴエモンコシオリエビを飼う」**

元木香織, 山本麻未, 長井裕季子, 羽田枝美, 上田賢司, 豊福高志, 高井研, 和辻智郎

Blue Earth 2015、東京 (平成 27(2015)年 3 月)

**「硫化水素添加水槽を用いたシロウリガイ類飼育」**

長井裕季子, 豊福高志, 多米晃裕, 植松勝之, 和辻智郎, 生田哲朗, 高木善弘, 吉田尊雄, 小西正朗

Blue Earth 2015、東京 (平成 27(2015)年 3 月)

**"Habitat segregation in transition zones at hydrothermal vent fields in the Okinawa Trough, northwestern Pacific"**

Watanabe H., Yamamoto M., Yahagi T., Ogura T., Takahashi Y., Nakamura M., Seo M., Miyake H., Kojima S., Watsuji T.-o., Takai K., Ishibashi J. and Fujikura K.

14th International Deep-Sea Biology Symposium, Aveiro, Portugal (平成 27(2015)年 8 月)

**「メタン添加水槽におけるゴエモンコシオリエビの外部共生菌の変遷」**

元木香織, 和辻智郎, 山本麻未, 羽田枝美, 長井裕季子, 豊福高志, 上田賢司, 高木善弘, 高井研

2015 年度海洋若手会 東京大学大気海洋研究所 (ベスト発表賞受賞) (平成 27(2015)年 8 月)

**「沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト」**

野崎達生, 石橋純一郎, 島田和彦, 長瀬敏郎, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 渋谷岳造, 山田亮一, 猿橋具和, 許正憲, 高井研

日本地質学会第 122 年学術大会、長野 (平成 27(2015)年 9 月)



**「沖縄トラフ伊平屋北海丘の人工熱水孔を利用した黒鉱養殖プロジェクト」**

野崎達生, 石橋純一郎, 島田和彦, 長瀬敏郎, 高谷雄太郎, 加藤泰浩, 川口慎介, 和辻智郎, 渋谷岳造, 山田亮一, 猿橋具和, 許正憲, 高井研

日本地球化学会第 62 回年会、横浜 (平成 27(2015)年 9 月)

**「深海底熱水活動域に生息する化学合成独立栄養細菌の集団遺伝学: 遺伝的多様性と分布パターンの解明」**

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 宮崎淳一, 加藤真悟, 和辻智郎, 井町寛之, 布浦拓郎, Sievert Stefan, Godfroy Anne, 高井研, 澤辺智雄

第 30 回日本微生物生態学会大会、土浦 (平成 27(2015)年 10 月)

**「ノホサイトの紹介」**

宮崎淳一, 高井研, 宮崎征行, 北田数也, 笠谷貴史, 山本正浩, 蝦名直也, 元木香織, 和辻智郎, Chen Chong, 石橋純一郎, 戸塚修平, 平敷紗和子, 眞壁明子, 奥村知世, 中村謙太郎, 川口慎介, 熊谷英憲

InterRidge-Japan 研究集会、柏市 (平成 27(2015)年 11 月)

**"Rapid growth of mineral deposits at artificial seafloor hydrothermal vents"**

Nozaki T., Ishibashi J., Shimada K., Toshiro N., Takaya Y., Kato Y., Kawagucci S., Watsuji T.-o., Shibuya T., Yamada R., Saruhashi T., Kyo M. and Takai K.

Goldschmidt2016, Yokohama, Japan (平成 28(2016)年 7 月)

**"The effect of environmental conditions on the composition of epibiotic community associated with deep-sea crustaceans"**

Motoki K., Hada E. Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T., Takai K. and Watsuji T.-o.

ISME16, Montreal, Canada (平成 28(2016)年 8 月)

**"Morphological characterization of deep-sea endemic crab ventral setae"**

Fujiyoshi S., Watsuji T.-o., Sawayama S. and Nakagawa S.

5th International workshop on deep sea microbiology, Kyoto, Japan (平成 28(2016)年 9 月)

**"What regulated abundance of the dominant species in the epibiotic community on the deep-sea crustaceans?"**

Motoki K., Watsuji T.-o., Yamamoto A., Hada E., Nagai Y., Toyofuku T., Ueda K., Takaki Y., and Takai K.

Extremophiles2016, Kyoto, Japan (平成 28(2016)年 9 月)

**「深海底熱水活動域に普遍的に生息する化学合成独立栄養細菌の生物地理学的特徴の解明」**

美野さやか, 中川聡, 牧田寛子, 工藤桃李, 宮崎淳一, 稲垣史生, 加藤真悟, 布浦拓郎, 井町寛之, 和辻智郎, 高井研, 澤辺智雄

第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28(2016)年 10 月)

**「深海底熱水活動域に生息する固有甲殻類の共生器官“腹部剛毛”の構造的特徴」**

藤吉奏, 和辻智郎, 澤山茂樹, 中川聡

第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28(2016)年 10 月)

**「ゴエモンコシオリエビの外部共生菌相を用いた環境影響評価方法の構築」**

和辻智郎, 元木香織, 羽田枝美, 長井裕季子, 高木善弘, 豊福高志, 山本啓之, 高井研

第 31 回日本微生物生態学会大会、横須賀 (平成 28(2016)年 10 月)

**"Compositional and functional shift in epibiotic bacterial community of hydrothermal vent crab during methane-fed rearing"**

Motoki K., Hada E., Nagai Y., Takaki Y., Yamamoto A., Ueda K., Toyofuku T, Yamamoto H., Takai K. and Watsuji T.-o.

9th ASME, Busan, South Korea (平成 29(2017)年 4 月)

**「現場 RNA 固定装置を用いた深海動物の外部共生菌のメタトランスクリプトーム解析」**

元木香織, 高木善弘, 徳田真紀, 笠谷貴史, 高井研, 和辻智郎

第 5 回研究会 仙台 (平成 29(2017)年 5 月)

**「ゴエモンコシオリエビを用いて外部共生細菌と深海動物の関係性を探る」**

和辻智郎

第 19 回マリンバイオテクノロジー学会 仙台大会 (平成 29(2017)年 6 月)



|     |  |
|-----|--|
|     | <p>「ゴエモンコシオリエビを用いて外部共生細菌と深海動物の関係性を探る」<br/>和辻智郎<br/>第19回マリンバイオテクノロジー学会 仙台大会 (平成29(2017)年6月)</p>   |
|     | <p>「深海性甲殻類の外部共生菌叢の生態をメタトランスクリプトーム解析で解明する」<br/>元木香織, 和辻智郎, 高木善弘, 徳田真紀, 笠谷貴史, 高井研, 岩崎渉<br/>第32回日本微生物生態学会大会, 沖縄 (平成30(2018)年7月)</p>   |
|     | <p>“<i>In situ</i> metatranscriptomics reveals physiology of chemosynthetic ecto-symbiosis of the deep-sea squat lobster, <i>Shinkaia crosnieri</i>”<br/>Motoki K., Watsui T., Takaki Y., Tokuda M., Kasaya T., Takai K. and Iwasaki W.<br/>7th International Symposium on Microbial Ecology, Leipzig, Germany (平成30(2018)年8月)</p> |
|     | <p>「深海無脊椎動物外部共生細菌叢のロングリードメタゲノミクスによる微生物ゲノム構造進化過程の解明」<br/>元木香織, 和辻智郎, 豊田敦, 高井研, 岩崎渉<br/>第34回日本微生物生態学会大会, 新潟 (令和3(2021)年10月)</p>  |
| 特許等 | <p>水生生物の飼育システムとその飼育方法 JP5999848B2 (日本) (平成28(2016)年9月)</p>   |
|     | <p><i>Aquatic organism rearing system and aquatic organism rearing method</i><br/>US9603345B2 (米国) (平成29(2017)年3月)</p>   |
|     | <p><i>Aquatic organism rearing system and aquatic organism rearing method</i><br/>EP2764774B1 (欧州) (平成30(2018)年3月)</p>   |
| 受賞歴 | <p>海洋研究開発機構にて研究開発功績賞の受賞 (機構内で最も優れた研究業績と評価)<br/>(平成27(2015)年4月)</p>   |

ヨシダ コウイチ  
吉田 浩一 YOSHIDA Koichi 准教授

|  |  |  |
|--|--|--|
| 所属   | 東筑紫短期大学 食物栄養学科   |  |
| 担当科目   | <b>〔食物栄養学科〕</b><br>・教育原理<br>・教育課程論<br>・道徳・総合的な学習及び特別活動<br>・教育方法論<br>・教職概論<br>・教職実践演習（栄養教諭）   |  |
|  | <b>〔九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科〕</b><br>・道徳教育の理論と方法<br>・教育課程論<br>・教育方法論<br>・教職実践演習（栄養教諭）  |  |
|  | <b>〔九州栄養福祉大学 リハビリテーション学部 理学療法学科・作業療法学科〕</b><br>・医療人のための教育学Ⅰ、医療人のための教育学Ⅱ  |  |
| 専門分野   | ■ 教育学  |  |
| 最終学歴   | 放送大学大学院 文化科学研究科人間科学プログラム修了   |  |
|  | 星槎大学大学院 教育学研究学科博士後期課程(令和4(2022)年4月)入学  |  |
| 学位   | 修士(学術)   |  |
| 職歴   | 福岡県直方市、中間市立小学校 教諭 (昭和59(1984)年4月～平成22(2010)年3月)<br>福岡県中間市立小学校 主幹教諭 (平成23(2011)年4月～平成29(2017)年3月)<br>福岡県中間市立中間北小学校 教頭 (平成29(2017)年4月～令和2(2020)年3月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (令和2(2020)年4月～現在に至る) |  |
| 教育上の業績   | <b>【作成した教科書】</b>   |  |
|  | <b>1. 『入門・教育学』(単著)</b><br>三恵社 (令和3(2021)年4月)   |  |
|  | (概要)<br>講座「教育原理」「医療人のための教育学Ⅰ」のテキスト。文部科学省「教育課程コアカリキュラム」に対応した内容に「Society5.0をめざす教育」「ジェンダー問題と教育」「人権と教育」「医療の倫理と教育の倫理」なども含め構成した。   |  |
|  | <b>2. 『入門・道徳教育の理論と授業方法』(単著)</b><br>三恵社 (令和3(2021)年4月)  |  |
|  | (概要)<br>講座「道徳教育の理論と方法」「道徳・総合的な学習の時間・特別活動」のテキスト。文部科学省「教育課程コアカリキュラム」に対応した内容で、栄養教諭として道徳の授業ができることをめざして内容を構成した。   |  |
|  | <b>3. 『入門・教育方法と技術』(単著)</b><br>三恵社 (令和3(2021)年4月)   |  |
| 講座「教育方法論」「医療人のための教育学Ⅱ」のテキスト。文部科学省「教育課程コアカリキュラム」に対応した内容で、教育方法の理論と授業方法、教育技術、学習指導案の作成などについて解説した。  |  |  |
| <b>4. 『入門・「総合的な学習の時間」の構想と展開』(単著)</b><br><b>創読の会企画 (令和3(2021)年5月)</b><br>文部科学省「教育課程コアカリキュラム」に対応した内容で「総合的な学習の時間」に関する理論と構想、実践例を内容として構成した。 |  |  |
| <b>5. 『教職概論』(単著)</b><br><b>創読の会企画 (令和3(2021)年7月)</b><br>文部科学省「教育課程コアカリキュラム」に対応した内容で、講座「教職概論」のテキストを作成した。                                |  |  |



| 主な研究活動 | 【著書】   |
|--------|--|
|        | <p>1. 小学校『特別の教科 道徳』の通知表文例 (共著)<br/>押谷由夫、小野勇一、遠藤直人、八木橋朋子、藤井隆之、柳朱音、丸岡慎弥、北川 忠、斉藤想能美、東小川智史、植田清宏、中橋和昭、吉田浩一<br/>明治図書 (令和元(2019)年 5 月)</p>  |
|        | <p>(概要)<br/>「道徳の評価」について、模範的な文例をまとめた。本人担当 : pp.118-125.<br/>内容項目 D-21 「感動・畏敬の念」及び D-22 「よりよく生きる喜び」について内容項目の解説と授業のポイント、学習状況に着目した文例、道徳性に係る成長の様子に注目した文例、NG 文例と言い換えポイントについて解説した。</p>  |
|        | <p>2. 『入門・教育学』(単著)<br/>三恵社 (令和 3(2021)年 4 月)</p>   |
|        | <p>(概要)<br/>「再掲」</p>   |
|        | <p>3. 『入門・道徳教育の理論と授業方法』(単著)<br/>三恵社 (令和 3(2021)年 4 月)</p>  |
|        | <p>(概要)<br/>「再掲」</p>   |
|        | <p>4. 『入門・教育方法と技術』(単著)<br/>三恵社 (令和 3(2021)年 4 月)</p>   |
|        | <p>「再掲」</p>  |
|        | <p>5. 『入門・「総合的な学習の時間」の構想と展開』(単著)<br/>創読の会企画 (令和 3(2021)年 5 月)</p>  |
|        | <p>「再掲」</p>  |
|        | <p>6. 『教職概論』(単著)<br/>創読の会企画 (令和 3(2021)年 7 月)</p>  |
|        | <p>「再掲」</p>  |
|        | <p>7. 『研究ノート「人間形成の教育」「人間認識の教育」の指導過程の比較: 文学教材の授業における興水理論と西郷文芸研方式』(単著)<br/>Kindle 版 (令和 3(2021)年 5 月)</p>  |
|        | <p>戦後の国語教育論者である興水実の「基本的指導過程」論と文芸教育研究協議会・代表西郷竹彦の「文芸研方式」の文学教材の授業における指導過程の比較を論じた。</p>   |
|        | 【学術論文】   |
|        | <p>1. 『自然愛護・環境保全』に関する道徳・ESD カリキュラム<br/>放送大学大学院学位論文・修士 (令和元(2019)年 12 月)</p>  |
|        | <p>(概要)<br/>いわゆる環境問題を例に、カリキュラム編成の果たしうる役割を論じたもの。具体的には、環境教育と道徳教育の関連史の観点から、海洋プラスチックごみ問題、動植物の絶滅危惧と在来種・外来種問題、水質汚濁などの環境課題解決に対し、小学校における「自然愛護・環境保全」に関する道徳科と ESD (持続可能な開発のための教育) の教科等横断的な教育活動のカリキュラム (道徳・総合的な学習・学級活動・家庭科などの教科横断的な教育活動) が有効であることを明らかにした。</p> |
|        | <p>2. 「地域・学校連携による ESD—大牟田市における展開」(単著)<br/>東筑紫短期大学研究紀要 第 51 号 (令和 2(2020)年 12 月)</p>  |
|        | <p>(概要)<br/>地域と学校との連携による ESD の大牟田市による特徴的な展開をユネスコスクールの Web サイト、安田昌則教育長による論文をもとに論じたもの。全市的に小学校、中学校、特別支援学校が一斉にユネスコスクールに加盟し、各学校独自に ESD の推進した大牟田市においては、その推進の中核は教育長と教育委員会のリーダーシップであったことを明らかにした。</p>   |





3. 「教職員の倫理観・規範意識の維持・継続化—コンプライアンス通信による短時間研修—」(単著)  
日本倫理道德教育学会紀要「倫理道德教育研究」第4号(令和3(2021)年3月)(査読有)

(概要)

教員の不祥事が多発しているため、学校管理職にとっては不祥事防止策を講じることが喫緊の課題となっている。小学校の管理職として、不祥事防止のために、35週にわたってコンプライアンス通信を発行し、短時間研修を実施し、不祥事防止の成果を明らかにした。

4. 「井上治郎の道德資料論とその思想」(単著)  
東筑紫短期大学研究紀要 第52号(令和3(2021)年12月)

(概要)

昭和40年代、文部省中学校道德の教科調査官であった井上治郎は、価値主義に反対し、「資料即生活論」という独自の道德授業の方法を提唱した。この研究においては井上が道德授業論の主張の核としていた「資料論」について主著作をもとに思想の経緯と現代的意義を明らかにした。

5. 「学生の人権問題の認識に関する調査研究」(単著)  
東筑紫短期大学研究紀要 第52号(令和3(2021)年12月)

(概要)

現在の学生においてはどのような人権問題を身近に感じているのか、優先的に解決すべき問題をどう感じているのか、最も効果的な人権啓発についてどう思っているかという人権問題の認識について調査し、望ましい人権啓発の方向性を考察した。

#### 【ふくおか教育論文】

1. 平成22年度「組織的に学力向上を図る教務運営  
～確実な成果をめざした『学力向上プラン』の展開～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成22(2010)年9月)
2. 「組織的に学力向上をめざす教務運営  
～『組織マネジメント』自己向上と協働～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成23(2011)年9月)
3. 「子どもが楽しく想像を広げ、文学の読みの力を高める国語科学習指導」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成25(2013)年9月)
4. 「実践的指導力向上をめざす初任者授業研修の展開  
～第1ステージにおける『授業づくり』の力量を高めるメンタリング・マネジメント～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成27(2015)年9月)
5. 「実践的指導力向上をめざす初任者授業研修の展開  
～課題意識に応じた授業力量を高めるメンタリング・マネジメント～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成28(2016)年9月)
6. 「教職員のコンプライアンス意識の醸成を図る取組  
～日常的に服務規律を意識させるための具体的方策～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成29(2017)年9月)
7. 「若手教員の資質能力の向上を図る教頭の働きかけ  
～コンプライアンス意識高揚を基盤に実践的指導力を高める具体的方策～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(平成30(2018)年9月)
8. 「教員育成指標に基づいて若年教員育成を図る教頭の働きかけ  
～『基礎・向上』ステージにおけるメンタリング・マネジメント～」(単著)  
福岡県教育委員会提出教育論文(令和元(2019)年9月)

#### 【民間研究所への応募論文】

1. 「初任者教員の道德の授業力を高め、子どもたちの道德性を育てる研修運営  
～若手教師のふれあいとぬくもりあるかわりをささえて～」(単著)  
総合初等教育研究所提出(平成28(2016)年11月)
2. 「子どもが自主的・計画的に活動するクラブ活動運営のマネジメント  
～地域人材の効果的な活用～」(単著)  
総合初等教育研究所提出(平成30(2018)年11月)
3. 「読み物資料」中心道德授業への史的経緯～特設期から10年の道德授業をさぐって～(単著)  
上廣倫理財団提出(平成30(2018)年11月)

**【教育雑誌への寄稿】**

1. 「全員を授業に引き込む”お手軽アイデア”話し合い編  
⑳心情図を活用した話し合い活動 ㉑ネームプレートの活用」(共著)  
『道徳2014.10月号 No.676』 明治図書 (平成26(2014)年10月)
2. 「最高の出会いにする需要開きの資料&板書モデル5年  
羽生結弦選手に学ぶ夢実現への決意」(共著)  
『道徳教育2015.4月号 No.682』 明治図書 (平成27(2015)年4月)
3. 「評価を意識した『特別の教科 道徳』の授業  
〔小学校〕授業の構想・実践を評価し、子どもの道徳性の評価へとつなぐ」(単著)  
『道徳教育2016.2月号 No.692』 明治図書 (平成28(2016)年2月)
4. 「『現代的な課題』に立ち向かう道徳授業(小学校中学年)『食育』と関連した道徳授業」(単著)  
『道徳教育2017.2月号 No.704』 明治図書 (平成29(2017)年2月)
5. 「有名教材×グループ活動でアクティブラーニング 小学校中学年『雨のバス停留所で』」(単著)  
『道徳教育2017.5月号 No.707』 明治図書 (平成29(2017)年5月)
6. 「道徳授業の話し合い活動の工夫&アイデア」(単著)  
『授業力&学級経営力2017.5月号 No.086』 明治図書 (平成29(2017)年5月)
7. 「通知表の記入文例集『様相』『思考』『表現』の評価文 小学5年生の記入文例」(単著)  
『道徳教育2018.7月号 No.721』 明治図書 (平成30(2018)年7月)
8. 「子どもの心を開く明るい教室づくり  
〔小学校中学年〕語りかけボード(教室入り口付近にかけるボード)」(単著)  
『道徳教育2019.4月号 No.730』 明治図書 (平成31(2019)年4月)
9. 「超有名教材の教材研究—教材の『外せないポイント』付  
〔小学校高学年〕銀のしょく台」(単著)  
『道徳教育2020.9月号 No.747』 明治図書 (令和2(2020)年9月)
10. 「内容項目別 名言で語る説話  
〔よりよい学校生活、集団生活の充実〕・〔伝統や文化の尊重、国や強度を愛する態度〕」(単著)  
『道徳教育2021.11月号 No.761』 明治図書 (令和3(2021)年11月)
11. 「批判的思考を生かした道徳心授業モデル 行為の是非議論の授業モデル」(単著)  
『道徳教育2022.2月号 No.764』 明治図書 (令和4(2022)年2月)

**【学会発表】**

1. 資料即生活論経緯と現代的授業構想  
～井上治郎「資料論・授業論」を根底とした「考え、議論する授業」～  
日本道徳教育方法学会第25回研究発表大会分科会  
(主催) 日本道徳教育方法学会  
(開催場所) 神戸市外国語大学  
(開催年月日) 令和元(2019)年6月  
(概要)  
昭和40年～50年代、文部省初中局教科調査官であった井上治郎「道徳授業論」である「資料即生活論」の史的な展開と「資料即生活論」に基づいて、現代の「考え、議論する道徳授業」へと創造的に授業構築することを試みた。人間が描かれた資料で、登場人物の行動、生き方の是非についての議論を中心とした問題解決的学習へと現代的改善を行った研究内容について報告した。
2. 「教員の倫理観・規範意識の高揚」  
(主催) 日本倫理道徳教育学会  
(開催場所) 東京大学  
(開催年月日) 令和元(2019)年12月  
(概要)  
教員の不祥事が多発する中であって、学校現場の教頭として毎週「校務コンプライアンス通信」を発行し、教師の不祥事に関する事案・事件について法令を基にした解説、服務についての解説、職員の順法意識・教育公務員としての自覚について働きかけた実践例について報告した。

**3. 『自然愛護』に関する道徳・ESD ユニット～道徳始動型展開構想～**

〈主 催〉 日本道徳教育方法学会

〈開催年月日〉 令和 2(2020)年 6 月

(概要)

ESD は、学習指導要領総則で「道徳教育」として位置付けられており、教育活動においては、総合的な学習の時間を中核とし、教科横断的に実践することになっている。現在、全国のユネスコスクール中心に展開されているが、特別の教科道徳の関連付けが明確でない実践も多い。そのため、特別の教科道徳の「自然愛護」を内容項目とした授業実践を始動とするユニットの構成を提起した。

**【教育実践発表】****1. 「学校をマネジメントする！学力向上コーディネーターの役割（小・中）」実践発表**

「学力向上コーディネーターの役割と実践」

福岡県教育センターキャリアアップ講座（平成 27(2015)年 8 月）

(概要)

福岡県教育センターにおいて学校全体の学力向上を目指す「学力向上コーディネーターの役割と実践」について教務主幹としての実践発表を行った。日常的な基礎学力を高める基盤的な取組み、4 教科の研究部会に分かれての授業研修会、板書から作る指導案など中間東小学校の学力向上の中核となるコーディネーターの実践について報告した。

**2. 「若年教員の資質能力を向上させる教頭の働きかけ―教員育成指標に基づく継続的な支援・指導の具体的方策―」**

令和元年度第 59 回九州地区公立学校教頭会研究大会熊本大会（令和元(2019)年 8 月）

(概要)

若年教員の自己向上意欲を促し、教員育成指標を基に教頭が継続的に支援・指導し、評価することで資質能力は高まることを提言。若年教員育成指標の作成とメンタリング・マネジメントの構想、教育公務員の使命感と自覚を深める工夫、「学級経営案」ソフトの活用、教職の実践力を高める支援・指導の工夫の 4 点から成果につながる具体的な教頭の働きかけを明らかにした。

**3. 「若年教員育成のための研修について」**

令和元年度北九州地区公立小学校教頭会研究大会（令和 2(2020)年 1 月）

(概要)

若年教員の資質能力の向上は、急務の課題である。コンプライアンス意識の高揚を図る「守りの経営」実践的指導力を高める「攻めの経営」の観点から、若年教員育成の研修経営について実践を報告した。

**主な社会活動**

- ・直方市立図書館・読書感想文コンクール選者（平成 2(1990)年 4 月～平成 17(2005)年 3 月）
- ・直方市小学校教科等研究会・国語部会部長（平成 2(1990)年 4 月～平成 19(2007)年 3 月）
- ・直方教育研究サークル・詩の会 児童詩集「風のように」発刊  
（平成 6(1994)年 4 月～平成 19(2007)年 3 月）
- ・直方市 IT 講習会・講師（平成 13(2001)年 5 月～12 月）
- ・中間市子ども用文化財・歴史パンフレット検討委員会委員（平成 27(2015)年 4 月～12 月）
- ・中間市青少年育成市民会議理事（平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月）
- ・中間市 PTA 連合会理事（平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月）
- ・中間市教育支援委員会委員（平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月）
- ・福岡県小学校教頭会副会長、北九州地区小学校教頭会長  
（平成 31(2019)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月）
- ・福岡「子どもの読書」関連団体連絡協議会・北九州地区協議会（令和 2(2020)年 4 月～現在に至る）

**所属学会**

- 日本道徳教育方法学会（平成 30(2018)年 4 月～現在に至る）
- 日本倫理道徳教育学会（平成 30(2018)年 4 月～現在に至る）
- 日本道徳教育学会（令和 2(2020)年 4 月～現在に至る）
- 日本 ESD 学会（平成 31(2019)年 4 月～令和 4 年 3 月）
- 日本教師学学会（令和元(2019)年 10 月～令和 3 年 3 月）
- 日本国語教育学会（令和元(2019)年 10 月～令和 2 年 3 月）
- 日本国語教育史学会（令和元(2019)年 10 月～令和 4 年 3 月）
- 九州教育経営学会（令和元(2019)年 10 月～現在に至る）
- 日本人権教育学会（令和 3(2021)年 10 月～現在に至る）



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

|     |   |   |
|-----|---|---|
|     | 九州教育学会<br>日本社会病理学会<br>日本教育社会学会  | (令和 3(2021)年 12 月～現在に至る)<br>(令和 3(2021)年 12 月～現在に至る)<br>(令和 4(2022)年 4 月～現在に至る) |
| 受賞歴 | 教育同人社第 14 回教育企画賞優良企画賞受賞<br>研究主題「子どもが言葉に着目し、創造豊かに読みを深める国語科学習指導」(平成 6(1994)年 1 月)<br>教職経験 20 年表彰 (福岡県教育委員会) | (平成 16(2004)年 4 月)  |



|        |   |
|--------|---|
| 所属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科  |
| 担当科目   | 〔食物栄養学科〕<br>・調理学<br>・調理学実習Ⅰ、調理学実習Ⅱ、調理学実習Ⅲ<br>〔専攻科（介護福祉専攻）〕<br>・家事の介護  |
| 専門分野   | ■ 調理学<br>■ 栄養指導<br>■ 栄養講話<br>■ 特定健診特定保健指導   |
| 最終学歴   | 活水女子短期大学 専攻科食物専攻  |
| 学位     | 短期大学士（栄養学）  |
| 職歴     | 独立行政法人労働者健康福祉機構 九州労災病院 栄養管理室 栄養士<br>(昭和 62(1987)年～昭和 63(1988)年)<br>医療法人清陵会 南ヶ丘病院 栄養管理室長 管理栄養士 (平成元(1989)年～平成 6(1994)年)<br>みやこ町役場 総合福祉センター (旧 豊津町役場) 管理栄養士<br>(平成 16(2004)年～平成 18(2006)年)<br>みやこ町役場 管理栄養士 (平成 20(2008)年～平成 27(2015)年)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (平成 28(2016)年 4 月～令和 4(2022)年 3 月)<br>東筑紫短期大学 食物栄養学科 准教授 (令和 4(2022)年 4 月～現在に至る)  |
| 教育上の業績 | 1) 担当教科『調理学』において栄養士実力認定試験の科目別正解率の向上を図る<br>備考) 全国平均：全受験者（4 年制大学を含む）<br>短期大学平均：全受験者のうち 2 年制短期大学<br>学校平均：東筑紫短期大学<br>・平成 29 年度 全国平均：23.3 % 短期大学平均：21.8 % 学校平均：25.1 %<br>調理学正解率が、全国平均を上回った<br>・平成 30 年度 全国平均：60.6 % 短期大学平均：58.2 % 学校平均：59.5 %<br>調理学正解率が、短期大学平均を上回った<br>・令和元年度 全国平均：42.0 % 短期大学平均：38.0 % 学校平均：40.0 %<br>調理学正解率が、短大平均を上回った<br>・令和 2 年度 全国平均：69.6 % 短期大学平均：66.0 % 学校平均：73.2 %<br>調理学正解率が、全国平均を上回った<br>・令和 3 年度 全国平均：35.5 % 短期大学平均：34.0 % 学校平均：34.2 %<br>調理学正解率が、短期大学平均を上回った<br>2) 作成した教材<br>調理学ワークシート、オンラインパワーポイント資料<br>調理学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ実習献立、オンライン実習ビデオ、<br>g 換算・調味%を使った献立変形演習資料 |
| 主な社会活動 | 1) 病院在籍中は病態別に個人栄養指導を行い病状の改善に繋げる。<br>(昭和 62(1987)年～平成 6(1994)年)<br>2) 乳幼児健診後、栄養指導及び離乳指導を行う。(平成 16(2004)年～平成 27(2015)年)<br>離乳食教室において、離乳食の作り方や進め方の指導を行う。<br>(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)<br>3) 特定健診・特定保健指導に携わり、個人面談、その後のフォローを個別に行い疾病の発症<br>予防・重症化の予防と改善に繋げる。(平成 20(2008)年～平成 27(2015)年)<br>4) 小学 4 年～6 年生を対象に「仲良しクッキング」の調理実習及び、食育講話を行う<br>平成 24(2012)年からは、献立の提供と食生活改善推進員の指導を行う。<br>(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)  |



- 5) 住民の栄養相談、栄養指導、訪問指導を随時行い、食生活改善に繋げる。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 6) 食生活改善推進員の教育として、年 6 回生活習慣病をテーマに講話と調理実習、衛生管理指導を行う。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 7) 毎年、食生活改善推進員養成講座を開講し、食生活改善推進員の増員を図る。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 8) 平成 24 年度、食生活改善推進会「男性部」を養成し、発足する。  
(平成 24(2012)年)
- 9) 地域の食育活動を食生活改善推進員と共に推進する (平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- ・ 1 歳半・3 歳児を対象に、食事の一部としての「おやつ」を作り、献立を添えて配布
  - ・ 「歯の健康フェア」にて「歯に良いおやつ」と「歯ッピーレシピ」を配布
  - ・ 保育所にて、「おやこの食育」推進の調理実習指導
  - ・ 地域の公民館への「バランス弁当」の配布と健康講話
  - ・ 献血の際、「貧血予防食」を作り、貧血予防の献立を添えて配布
  - ・ 防災訓練において、地産地消を目的とした炊き出しと、非常食のチラン作製配布
  - ・ 小学生の体験合宿にて「手作りこんにゃく」の実習指導を行う
- 10) 保育所にて、幼児期の母親を対象に、幼児期の食生活についての講話と、親子で作る「おやつ」の調理実習を行う。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 11) シルバー人材センター会員を対象に、年 2 回、生活習慣病の予防と改善をテーマにした講話と、調理実習を行う。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 12) 男性の食の自立と生活習慣病の予防と改善を目指し、「初心者男性料理教室」の講話と調理実習を行う。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 13) みやこ町「健康のつどい」にて、地域住民の生活習慣病予防と改善をはかる。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- ・ 「骨密度測定」・「体成分測定」・「味噌汁の塩分濃度測定」・「塩分閾値測定」・「肺年齢測定」を行い食生活改善に繋げる
  - ・ 「清涼飲料水に含まれるさとうの量」や「食品に含まれる食塩の量」、「1 日の野菜 350 g」の展示と解説をする
  - ・ 個別に栄養相談を受ける
- 14) 広報において、食の改善をテーマに原稿を書く。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 15) 生活習慣病の予防と改善、重症化予防をはかるため、各種高齢者大学（たちばな大学・各地区女性学級）の健康講話を行う。  
(平成 23(2011)年～平成 27(2015)年)
- 16) 生活習慣病の予防と改善、重症化予防をはかるため、各行政区や各教室への「出張講座」を随時行う（年間 50 回以上）。  
(平成 27(2015)年)
- ＜健康講話＞ 高血圧予防と食事、骨粗しょう症予防と食事、内臓脂肪と動脈硬化予防の食事、バランスのとれた食事、熱中症予防と食事、特定健診の結果の見方と食事等について、パワーポイントを作成し、講話する
- ＜演習＞ 自分に合ったエネルギー量、1 日のご飯量、1 日の油の量の計算
- ＜測定＞ 体成分測定、骨密度測定、塩分閾値測定
- 17) 「地域検討ケア会議」にて事例に対しての食生活改善指導や訪問栄養指導を行う。  
(平成 27(2015)年)
- 18) 特定健診データからデータの分析、それに基づく国保加入者の健康保持増進のための事業計画として“データヘルス計画”を策定し、みやこ町の健康寿命の延伸を図る。  
(平成 27(2015)年)
- 19) 周望学舎のシニアカレッジにて『自分の体を知って、食事でメンテ！バランスごはん』をテーマに、身体成分測定を行い、測定結果をもとに、食品の選び方や食べ方、バランスのとれた食事についての講座を行う。  
(平成 28(2016)年)
- 20) 周望学舎大学祭にて『清涼飲料水に含まれる砂糖の量』をテーマに、常日頃慣れ親しんで飲んでいるジュース・缶コーヒー・栄養ドリンク等に、予想以上の砂糖量が含まれていることを視覚でとらえてもらうための媒体展示を行う。  
(平成 28(2016)年)

|         |  |
|---------|--|
|         | <p>21) 平成 29 年度 子育て・親育ちの会にて『親子クッキング』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の親子を対象に料理教室を行う。<br/>また、大人と子供が同等量のさとうを摂取した時の血中のブドウ糖量について講話をする。<br/>(平成 29(2017)年)</p>  |
|         | <p>22) 『北九州ゆめみらいワーク 2018』へ食物栄養学科として出展する<br/>この企画に参加し、本学科の授業や実習における取組を紹介することにより、栄養士への興味関心を持ってもらう。また、日本栄養士会とも連携し、栄養士活動についての理解や周知を図る。<br/>(平成 30(2018)年)</p>  |
|         | <p>23) 平成 30 年度 子育て・親育ちの会にて『親子クッキング』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の親子を対象に料理教室を行う。<br/>また、子どもの「おやつ」について講話をする。<br/>(平成 30(2018)年)</p>   |
|         | <p>24) ～未来を切り拓く人材育成事業～<br/>『バランスの良い食事について』<br/>福岡県立京都高等学校定時制生徒を対象にした食育講座<br/>食事の習慣と生活習慣病との関係について講話を行う。<br/>(令和元(2019)年)</p>  |
|         | <p>25) 『北九州ゆめみらいワーク 2019』へ食物栄養学科として出展する<br/>この企画に参加し、本学科の授業や実習における取組を紹介することにより、栄養士への興味関心を持ってもらう<br/>また、管理栄養士・栄養士の活動先での取り組みや、栄養に関する地域イベントなどを支援する一環として『栄養ワンダー2019』を同時開催し、来場者に対する栄養に対する興味喚起を促すとともに、管理栄養士・栄養士の職能の認知と理解を図る。(令和元(2019)年)</p> |
|         | <p>26) 令和元年度 子育て・親育ちの会にて『親子クッキング』をテーマに、認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園児の親子を対象に料理教室を行う。<br/>また、幼児期の味覚と栄養バランスについて講話を行う。<br/>(令和元(2019)年)</p>  |
| 主な研究活動等 | <p>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(発表)<br/>平成 30 年度 一般社団法人日本調理科学会 (平成 30(2018)年 8 月)<br/>(由良亮、浜野純、萩原真人、<u>梅林千恵子</u>、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春<br/>: 日本調理科学会大会研究発表要旨集 30(0), 1, 2018、武庫川女子大学、平成 30 年 8 月 30-31 日。)</p>                                  |
|         | <p>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(論文)<br/>食生活研究 39(6) (平成 31(2019)年)<br/>(由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原真人、<u>梅林千恵子</u>、浜野純、楠瀬千春 : pp 338・357。)</p>  |
|         | <p>「キュウリ小ロススライス包丁操作のモーションデータから得られる特徴量の機械学習による分類」(発表) 2019 年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年 8 月)<br/>(由良亮、萩原真人、<u>梅林千恵子</u>、浜野純、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春<br/>: 日本調理科学会大会研究発表要旨集 2019, 31, 2C-11, p. 57-、中村学園大学、令和元年 8 月 26-27 日。)</p>                 |
|         | <p>「キュウリの小ロススライス動作から見る包丁技術学習者と熟練者の動作の特徴」(発表)<br/>2019 年度 一般社団法人日本調理科学会 (令和元(2019)年 8 月)<br/>(由良亮、浜野純、萩原真人、<u>梅林千恵子</u>、藤岡美香、山本麻衣、楠瀬千春<br/>: 日本食品科学工学会大会講演集 66th, 203, 2019、藤女子大学、令和元年 8 月 29-31 日。)</p>                                |
|         | <p>「包丁操作における特徴の見える化によるデータを活用した指導効果」(発表)<br/>日本栄養学教育学会雑誌 4(Supplement) (令和元(2019)年 9 月)<br/>(山本麻衣、藤岡美香、楠瀬千春、萩原真人、<u>梅林千恵子</u>、浜野純、由良亮 : pp17。)</p>  |
|         | <p>「6 軸モーションセンサーによる包丁操作データを活用した操作特徴の見える化」(発表)<br/>日本栄養学教育学会雑誌 4 (Supplement) (令和元(2019)年 9 月)<br/>(由良亮、藤岡美香、山本麻衣、萩原真人、<u>梅林千恵子</u>、浜野純、楠瀬千春 : pp16。)</p>   |
| 所属学会    | <p>日本栄養士会 (昭和 62(1987)年～現在に至る)<br/>日本栄養改善学会 (平成 28(2016)年～現在に至る)</p>   |
| 受賞歴     | <p>日本栄養士会 栄養改善功績表彰 (平成 26(2014)年)<br/>食生活研究会 最優秀論文賞受賞<br/>「包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較」(論文) (令和 2(2020)年)</p>   |



|        |   |
|--------|---|
| 所属     | 東筑紫短期大学 食物栄養学科  |
| 担当科目   | <p>[食物栄養学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養指導論Ⅰ、栄養指導論Ⅱ</li> <li>・栄養指導実習Ⅰ</li> <li>・栄養学実習</li> <li>・給食管理実習Ⅱ</li> <li>・フードスペシャリスト論</li> <li>・初年次教育・キャリアアップ演習Ⅰ</li> </ul> <p>[保育学科]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもの食と栄養</li> </ul>   |
| 専門分野   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 栄養教育</li> <li>■ 栄養指導</li> <li>■ 特定保健指導</li> <li>■ 健康運動指導</li> </ul>  |
| 最終学歴   | 九州保健福祉大学 通信教育部社会福祉学部 臨床福祉学科   |
| 学位     | 学士 (社会福祉学)  |
| 職歴     | <p>航空自衛隊入隊 (昭和 58(1983)年 3月～昭和 60(1985)年 6月)</p> <p>学校法人鶴岡学園 北海道文教短期大学 栄養士 (平成 9(1997)年 4月～平成 11(1996)年 3月)</p> <p>北海道千歳市臨時職員 (栄養士) (平成 11(1999)年 4月～平成 13(2001)年 3月)</p> <p>株式会社九州ビット 栄養士 (平成 13(2001)年 8月～平成 14(2002)年 5月)</p> <p>医療法人優和会 古賀病院 管理栄養士・健康運動指導士 (平成 14(2002)年 6月～平成 15(2003)年 3月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州小倉病院 管理栄養士 (平成 15(2003)年 3月～平成 17(2005)年 9月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州小倉病院 主任 (管理栄養士) (平成 17(2005)年 10月～平成 18(2006)年 2月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州八幡東病院 主任 (管理栄養士) (平成 18(2006)年 2月～平成 24(2012)年 9月)</p> <p>医療法人北九州病院 北九州八幡東病院 次長 (管理栄養士) (平成 24(2012)年 10月～平成 28(2016)年 4月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州津屋崎病院 次長 (管理栄養士) (平成 26(2014)年 5月～平成 28(2016)年 9月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州小倉病院 次長 (管理栄養士) (平成 28(2016)年 10月～令和元(2019)年 9月)</p> <p>特定医療法人北九州病院 北九州総合病院 課長 (管理栄養士) (令和元(2019)年 10月～令和 2(2020)年 3月)</p> <p>東筑紫短期大学 食物栄養学科 講師 (令和 2(2020)年 4月～現在に至る)</p> |
| 教育上の業績 | <p>○西日本看護専門学校 看護学科 非常勤講師「栄養学」担当 (平成 26(2014)年 4月～令和 2(2019)年 3月)</p> <p>西日本看護専門学校において看護学科 2年生を対象に、「栄養学」の講義を担当。第一優先としては国家試験受験に向けた内容を主体に講義を行ってはいるが、臨床現場で役立つ看護師育成のために、教科書では知ることができない授業を展開および調理実習を担当した。</p>   |
| 職務上の業績 | <p>○調理職員の継続的採用の構築 (平成 24(2012)年度～令和元(2019)年度)</p> <p>北九州八幡東病院において調理職員の退職都度採用をしていたが、年度初めに調理職員を採用できるよう高校の就職担当教師へアプローチを行い、調理師資格を持った高校生への採用を導入した。</p> <p>2年連続採用を行い、3年目からは北九州病院グループ全体に派生し、病院本部にて指定校制度が定着している。その基盤づくりに貢献した。</p>   |





|        |   |
|--------|---|
|        | <p>○濃厚流動食統括管理制度の責任者 (平成 26(2014)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)<br/>各社から様々な濃厚流動食や栄養補助食品が販売されているが、それらは食品であり医薬品ではないことから、選択は管理栄養士が行うべきであることを、医師や薬剤師に説明を行い、患者に適した製品の選択は管理栄養士に権限を与えてもらい、病院グループで使用可能な製品の選択 (成分内容・機能別特長) から、スケールメリットを活かした価格への入札体制、統括管理に伴う規定の作成などを行う制度を前任者が構築した。その制度の継続のための責任者として業務を遂行した。</p> <p>○ヘルパー向け調理実習 (平成 28(2016)年 9 月～現在に至る)<br/>北九州ヘルスケアサービスヘルパー向けに減塩食や嚥下食など毎年テーマを変え講義および調理実習を実施している。</p> <p>○人間ドック対象者への栄養指導方法の構築 (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)<br/>北九州小倉病院において、人間ドックの栄養指導を実施しているが、入院ドックにおいては全体に向けた講和を実施していた。人間ドックに機能評価を受けるにあたり、個別性が重視され、入院ドック受診者における個別栄養指導方法を構築した。</p> <p>○特定保健指導当日初回面談の導入 (平成 29(2017)年 4 月～令和 2(2020)年 3 月)<br/>小倉病院において、市から依頼される特定保健指導を実施していたが、それに加え、2017 年より協会健保からの依頼を受けるようになった。管理栄養士の限られたマッパワの中で、保健指導の件数を上げるため、当日に初回面談を行うシステムを構築した。</p> |
| 主な研究活動 | 【学術論文】  |
|        | <p>1. Modulatory effects of Bifidobacterium longum BB536 on defecation in elderly patients receiving enteral feeding. (共著)<br/>(経腸栄養管理の高齢患者の排便に対するビフィズス菌 BB536 の調節効果)<br/>J.Kondo, A.Abe, K. Shimizu, K.Ogawa, T.Taeko<br/>World Journal of Gastroenterology April 14,2013;19(14):2162-2170 (2013.4)<br/>(概要)<br/>経管栄養で管理している高齢者を対称に、試験 1)ではプラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の 2 群に分け、試験 2)ではビフィズス菌高用量群と低用量群とプラセボ群の 3 群に分け、便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。</p> <p>2. 「二次性サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助飲料摂取の併用効果」 (共著)<br/>近藤順子、阿部亜希恵、岡田昌子、川添恵理子、吉岡承美、古谷恭子、白幡 聡<br/>東筑紫短期大学 研究紀要 48、299-307、2017 (平成 29(2017)年 12 月)<br/>(概要)<br/>経管栄養を施行されている二次性サルコペニア肥満患者を対象に、ベッドサイドリハビリテーションにビタミン D と BCAA の摂取を併用することで骨格筋の減少を抑えることが可能であるか、介入試験の結果をまとめた。</p>   |
|        | 【学会発表】  |
|        | <p>1. 「高齢者に対するビフィズス菌長期投与による免疫賦活作用と感染防御効果」<br/>第 57 回日本栄養改善学会学術総会 (平成 22(2010)年 9 月)<br/>(概要)<br/>経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 5 週間摂取した群の体温、便性状等の比較検討結果をまとめた。</p> <p>2. 「プロバイオティクビフィズス菌の長期摂取による高齢患者の便通性状および生体防御に対する影響の検討」<br/>第 14 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 23(2011)年 1 月)<br/>(概要)<br/>経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告。</p>   |



### 3. 「プロバイオティクビフィズス菌の摂取による高齢患者の便中細菌叢および便性状に対する影響の検討」

第 15 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 24(2012)年 1 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の便中細菌叢と便性状の比較検討結果をまとめた。

### 4. Effects of the enteral nutrition containing probiotic Bifidobacterium longum BB536 on bowel movement and immunological parameters of the elderly patients

第 16 回国際栄養士会議 (平成 24(2012)年 9 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 2 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 を 16 週間摂取した群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果を報告。

### 5. 「ビフィズス菌 BB536 の長期投与が経腸栄養高齢患者の便性状および腸内細菌叢におよぼす影響」

第 28 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成 25(2013)年 2 月)

(概要)

経管栄養で管理している高齢者を 3 群に分け、プラセボ群とビフィズス菌 BB536 中用量群と高用量群の体温、便性状、免疫指標等の比較結果および腸内細菌叢への影響を報告。

### 6. 「経管栄養管理の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査」

第 29 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (平成 26(2014)年 2 月)

(概要)

管栄養で管理している高齢者において、寝たきりの不活動で体重増加、筋肉量の低下、体脂肪の増加による、サルコペニア肥満の実態調査を行い発表した。

### 7. 「寝たきり状態の高齢者におけるサルコペニア肥満の実態調査報告」

第 18 回日本病態栄養学会年次学術集会 (平成 27(2015)年 1 月)

(概要)

経管栄養で栄養管理している高齢者において、サルコペニア肥満の実態調査を行い、摂取栄養量との関連について発表した。

### 8. 「サルコペニア肥満患者に対するリハビリテーションと栄養補助食品摂取の併用効果」

第 31 回日本静脈経腸栄養学会年次学術集会 (平成 28(2016)年 2 月)

(概要)

経管栄養で栄養管理している高齢者において、サルコペニア肥満患者に対しリハビリテーションと栄養補助食品を摂取した効果について発表した。

## 主な社会活動

- ・ NADAC 研修会  
 「段階嚥下食とチーム医療  
 ～食べてもらってなんぼです～」講演 (平成 22(2010)年 12 月 11 日)
- ・ 北九州八幡東病院 家族会  
 「当院の栄養管理の取り組みについて」講演 (平成 26(2014)年 3 月 8 日)
- ・ 北九州津屋崎病院 家族会  
 「食事と栄養 ～生活習慣病予防対策～」講演 (平成 26(2014)年 10 月 11 日)
- ・ 九州女子大学  
 「運動療法と栄養を指導する管理栄養士としての役割」講演 (平成 27(2015)年 6 月 23 日)
- ・ 桜丘校区健康講座  
 「健康で老いるための 5 つのポイント “メタボとロコモ” 予防の食事」講演 (平成 28(2016)年 9 月 24 日)
- ・ 北九州病院ヘルスケアサービスヘルパー対象  
 「訪問看護に必要な栄養知識と調理実演」講演および調理実習訪問看護 (平成 28(2016)年 9 月～令和 2(2020)年 3 月)
- ・ 北九州小倉病院 家族会  
 「当院栄養管理科取り組みについて」講演 (平成 29(2017)年 7 月 28 日)



|      |  |
|------|--|
|      | <ul style="list-style-type: none"><li>・北九州小倉病院 家族会<br/>「当院の栄養管理と豆知識 (栄養ワンダー)」講演 (平成 30(2018)年 7 月 21 日)</li><li>・北九州小倉病院 家族会<br/>「栄養豆知識 (栄養ワンダー)」講演 (令和元(2019)年 7 月 6 日)</li><li>・北九州病院グループフィジカルセミナー<br/>「食事与健康を作る ～腸から健康に～」講演 (令和元(2019)年 9 月 7 日)</li><li>・福岡県栄養士会 栄養指導等ボランティア活動 (平成 13(2001)年 4 月～現在に至る)</li><li>・北九州 CDE の会 栄養指導等ボランティア活動 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)</li><li>・北九州市小倉北区桜丘校区 健康づくり部会ボランティア参加<br/>(平成 28(2016)年 4 月～令和元(2019)年 9 月)</li><li>・小倉歯科医師会在宅歯科医療推進に関わる事業<br/>「栄養と感染」について執筆 (令和 2(2020)年 11 月)</li></ul> |
| 所属学会 | 日本栄養士学会 (平成 9(1997)年 4 月～現在に至る)<br>NPO 法人 日本健康運動指導士会 (平成 13(2001)年 8 月～現在に至る)<br>日本臨床栄養代謝学会 (旧日本静脈経腸栄養学会) (平成 19(2007)年 4 月～現在に至る)<br>日本糖尿病協会 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)<br>北九州 CDE の会 (平成 21(2009)年 4 月～現在に至る)  |
| 受賞歴  | 全国栄養士養成施設協会会長賞表彰 (平成 9(1997)年 3 月)<br>特定医療法人北九州病院 10 年永年勤続表彰 (平成 25(2013)年 5 月)<br>福岡県栄養士大会 第 39 回栄養改善学会 功労者表彰 (平成 25(2013)年 10 月)   |



学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

ハヤシ 林 なつ実 HAYASHI Natsumi 実習助手

|                      |   |
|----------------------|---|
| 所 属                  | 東筑紫短期大学 食物栄養学科  |
| 担 当 科 目<br>〔講義・実習補助〕 | 〔食物栄養学科〕<br>・栄養指導実習Ⅰ<br>・栄養指導実習Ⅱ<br>・栄養教育実習<br>・給食管理実習Ⅱ |
| 専 門 分 野              | ■ 栄養教諭科目  |
| 最 終 学 歴              | 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科                                  |
| 学 位                  | 学士（食物栄養学）   |
| 職 歴                  | 東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手 (令和2(2020)年4月～現在に至る)                |





学校法人 東筑紫学園

東筑紫短期大学

HIGASHI CHIKUSHI JUNIOR COLLEGE

ソラ サヨ  
空 咲葉

SORA Sayo 実習助手

|                      |  |
|----------------------|--|
| 所 属                  | 東筑紫短期大学 食物栄養学科                                 |
| 担 当 科 目<br>〔講義・実習補助〕 | 〔食物栄養学科〕<br>・臨床栄養学実習Ⅰ<br>・臨床栄養学実習Ⅱ<br>・給食管理実習Ⅰ |
| 専 門 分 野              | ■ 給食管理   |
| 最 終 学 歴              | 九州栄養福祉大学 食物栄養学部 食物栄養学科                         |
| 学 位                  | 学士（食物栄養学）                                      |
| 職 歴                  | 東筑紫短期大学 食物栄養学科 実習助手 (令和2(2020)年4月～現在に至る)       |